

内閣府平成29年度委託調査事業

学生の就職・採用活動開始時期等
に関する調査

調査結果（速報版）

平成29年11月
株式会社浜銀総合研究所

この調査結果（速報版）は、現時点における議論に資するよう作成するものであり、今後、有識者を交えた分析・検討、データの更なる精査を経て、調査結果報告書を作成することとしている。

<目次>

1. 調査の概要・回答者属性	1
(1) 調査の概要	1
(2) 回答者属性	2
(3) ウェイトによる補正	4
2. 就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等	6
(1) 就職活動時期に関する認識の状況	6
(2) 就職活動時期に関する認識	9
(3) 就職活動と学修時間確保の状況	11
3. 就職活動内容	14
(1) 企業の広報活動開始前の活動状況	14
(2) 業界や企業に関する分析を開始した時期	15
(3) 企業説明会やセミナー等の参加時期	16
(4) エントリーシートの提出時期	19
(5) 採用面接の実施時期	22
(6) 内々定の状況・内々定の時期	26
(7) 就職活動の始まりと終わりの認識	29
(8) インターンシップの参加状況	35
4. 企業による学業などに対する配慮の状況等	40
(1) 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況	40
(2) 採用面接の際の学業や成績等への評価	41
(3) 就職活動の日程・時間帯等に関する配慮	42
(4) 遠隔地への就職活動への配慮	44
(5) クールビズでの対応	45
(6) 留学経験者への配慮	46
(7) 教育実習受講者への配慮	51
(8) ハラスメント的な行為の状況	56

1. 調査の概要・回答者属性

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、平成 29 年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動の実態を把握することにより、来年度以降の就職・採用活動の円滑な実施に資することを目的として実施した。

②調査の実施方法

地域、設置主体、規模等を勘案して選定した全国の約 60 の大学に協力いただき、それらの大学から、大学 4 年生及び大学院修士課程（博士前期課程）2 年生¹にアンケート調査への協力を依頼していただいた。なお、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生については調査の対象外である旨を案内の上で実施した²。

各学生には、インターネット上に開設したアンケート調査のホームページにアクセスし、回答していただいた。ホームページは、平成 29 年 7 月 12 日から 8 月 10 日までの間開設した。

③回答状況

対象学年別の有効回答件数は図表 1-1 の通りである。なお、社会人経験があり元の職場に復帰予定の者や、進学等を予定しており就職活動をする予定がない者等については、集計の過程において、適宜対象から除いて集計を行った。

図表 1-1 学年別の有効回答件数

対象	大学 4 年生	大学院 2 年生	合計
有効回答件数	7,181	2,692	9,873

※学年について「その他」と回答があった 78 件については有効回答の対象外とした。

¹ 以下「大学院 2 年生」と表記する。

² 本調査は、全国の約 60 の大学について、原則として対象学年の全学生に対し調査の案内をしていただくように依頼をしたが、調査依頼を行う大学のなかには、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生が多く在籍する大学があると想定された。医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生は、就職・採用選考活動に関してその他の学生とは異なる動きとなる場合が多いと予想されたが、これらの学生が調査対象全体に占める割合を母集団の分布等に基づいて事後的に調整を行うことが困難であると考えられたため、あらかじめ調査対象外とすることとした。なお、本報告書に記載・言及している平成 28 年度調査においても同様の方法で調査を実施している。平成 27 年度調査では医学科等の学生や留学生も調査対象に含めているが、平成 27 年度調査は調査依頼を行っていただく学生の人数を各大学に割り当て、対象学生は各大学で抽出してもらうという方法をとっている。また、抽出の際の男女比や文系・理系の比率は大学全体の構成比と同率にさせていただくよう依頼を行っており、平成 27 年度調査において医学科等の学生や留学生が母集団との関係において過度に多く含まれてしまうということは生じていないものと想定される。

(2) 回答者属性

本調査への回答が得られた学生の属性に関して、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域による割合を、対象学年別に図表 1-2～図表 1-5 に示し、それぞれ右欄に平成 29 年度の学校基本調査³（文部科学省調べ）の情報（速報値）について掲載した⁴。

本調査の回答者の属性の状況を、学校基本調査に基づく全国の母集団の状況と比較すると、性別については大学 4 年生で「女性」からの回答割合が高くなっており、大学・大学院の設置主体について「国立」からの回答割合が高いなど、若干の偏りが生じている状況にあることが把握される。

図表 1-2 性別

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)
男性	47.0%	56.9%	73.2%	68.4%
女性	53.0%	43.1%	26.8%	31.6%
集計度数	7,181	661,269	2,692	83,110

図表 1-3 大学・大学院の設置主体

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)
国立	25.5%	18.3%	69.8%	59.1%
公立	3.4%	5.2%	6.2%	6.8%
私立	71.1%	76.4%	24.1%	34.1%
集計度数	7,181	661,269	2,692	83,110

³ 学校基本調査は、全国全ての学校を対象とした、統計法（平成 19 年法律第 53 号）に基づく基幹統計調査である。

⁴ 調査対象として医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生は対象外としていることから、学校基本調査の情報のうち「専攻」について、「保健」の学生数を除いた値を参照した。ただし、性別や設置主体別、地域別のデータについては、一部「保健」を専攻している学生を取り除いた値の算出が困難であったことから、「保健」の者も含めた値を参照している。（図表 1-4 は「保健」専攻の学生を除いた値、図表 1-2、図表 1-3、図表 1-5 は「保健」専攻の学生を含めた値）

図表 1-4 専攻

	大学 4 年生		大学院 2 年生	
	本調査	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)
人文科学	21.2%	16.8%	4.6%	7.9%
社会科学	44.5%	37.3%	6.1%	10.9%
理学	6.9%	3.6%	26.2%	9.0%
工学	12.1%	17.6%	48.3%	43.3%
農学	3.1%	3.2%	9.1%	5.9%
保健	2.3%	—	1.1%	—
商船	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家政	0.8%	3.0%	0.4%	0.6%
教育	3.4%	8.5%	1.6%	6.3%
芸術	0.5%	2.9%	0.5%	2.9%
その他	5.2%	7.0%	2.1%	13.4%
文系	75.5%	75.5%	15.3%	41.9%
理系	24.5%	24.5%	84.7%	58.1%
集計度数	7,181	594,053	2,692	76,681

※「人文科学」、「社会科学」、「家政」、「教育」、「芸術」、「その他」を「文系」とし、「理学」、「工学」、「農学」、「保健」、「商船」を「理系」としている

図表 1-5 大学・大学院の所在地域

	大学生		大学院生	
	本調査 (大学 4 年生)	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)	本調査 (大学院 2 年生)	平成 29 年度 学校基本調査 (速報値)
北海道・東北	6.0%	7.4%	11.6%	8.7%
関東	33.7%	44.0%	41.1%	42.2%
中部	9.7%	12.8%	15.3%	13.1%
近畿	33.8%	21.0%	14.6%	20.2%
中国・四国	6.3%	6.6%	8.2%	7.1%
九州・沖縄	10.5%	8.3%	9.3%	8.6%
集計度数	7,181	2,890,942	2,692	250,893

※「北海道・東北」は、北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県が該当する

※「関東」は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県が該当する

※「中部」は、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県が該当する

※「近畿」は、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県が該当する

※「中国・四国」は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県が該当する

※「九州・沖縄」は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県が該当する

(3) ウェイトによる補正

就職・採用活動の状況は、文系・理系などの属性別に差異があると考えられたことから、大学4年生全体、または大学院2年生全体の状況を示すにあたっては、可能な限り回答者の属性分布を母集団に近似させることが望ましいと考えられた。そこで、本調査では、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、それぞれのバランスが母集団に近似するようにウェイト付けを行った上で集計を行うこととした。

分類別のウェイト値は図表 1-6 に示したとおりである。また、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域のそれぞれについて、ウェイトによる補正後の分布は図表 1-7～図表 1-10 のようになっている⁵。

これらから、ウェイト補正後は、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、母集団における分布と近い構成比になっていることが確認できる⁶。ただし、専攻の内訳と大学・大学院の所在地域については直接的にウェイト付けの対象としなかったことから、母集団の分布と比べて若干の偏りが生じている状況にある。

図表 1-6 性別、大学・大学院の設置主体別、文系・理系別のウェイト値

本調査			大学4年生	大学院2年生
男性	国立	文系	0.7652	2.7874
		理系	0.9506	0.6554
	公立	文系	2.1353	2.6227
		理系	0.9912	0.7064
	私立	文系	1.4134	3.3555
		理系	1.4482	0.9867
女性	国立	文系	0.5701	2.2641
		理系	0.4571	0.3574
	公立	文系	1.3960	3.9806
		理系	0.8789	0.7834
	私立	文系	0.8244	2.7754
		理系	0.7369	1.0360

※ウェイト値について四捨五入の上小数点以下第4位まで掲載しているが、実際には小数点以下第15位までの値に基づいてウェイト付けを行っている。

⁵ ウェイト補正後の集計値に関しては、四捨五入等している関係で、設問により、選択肢ごとの度数と度数合計が一致しない場合がある。また、集計結果の割合(%)は、小数点第2位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が100%にならない場合がある。

⁶ 専攻の内訳と大学・大学院の所在地域については直接的にウェイト付けの対象としなかったことから、母集団の分布と比べて若干の相違があるが、細部まで補正を行うことが困難であったことから、「性別」「大学・大学院の設置主体別」「文系・理系別」の3点について補正したデータにより集計を行った。なお、ウェイト付けの際には、専攻について「保健」の者を除いた形で値を算出した。このことにより、ウェイト補正後の「性別」「大学・大学院の設置主体別」の分布について、図表 1-2、図表 1-3 に掲載した構成比とは若干異なる値になっている。

図表 1-7 性別（ウエイトによる補正後）

本調査	大学 4 年生	大学院 2 年生
男性	59.0%	70.5%
女性	41.0%	29.5%
集計度数	7,181	2,692

図表 1-8 大学・大学院の設置主体（ウエイトによる補正後）

本調査	大学 4 年生	大学院 2 年生
国立	18.4%	59.3%
公立	4.7%	6.8%
私立	76.9%	33.9%
集計度数	7,181	2,692

図表 1-9 専攻（ウエイトによる補正後）

本調査	大学 4 年生	大学院 2 年生
人文科学	19.8%	12.6%
社会科学	46.9%	17.2%
理学	7.0%	17.8%
工学	13.0%	34.8%
農学	2.3%	4.9%
保健	2.3%	0.7%
商船	0.0%	0.0%
家政	0.6%	1.1%
教育	2.7%	4.0%
芸術	0.5%	1.3%
その他	4.9%	5.7%
文系	75.5%	41.9%
理系	24.5%	58.1%
集計度数	7,181	2,692

図表 1-10 大学・大学院の所在地域（ウエイトによる補正後）

本調査	大学 4 年生	大学院 2 年生
北海道・東北	5.0%	8.1%
関東	33.9%	46.9%
中部	9.4%	12.5%
近畿	37.4%	18.0%
中国・四国	4.8%	6.8%
九州・沖縄	9.5%	7.6%
集計度数	7,181	2,692

以降では、ウェイト補正後のデータに基づき、2. 就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等、3. 就職活動内容、4. 企業による学業などに対する配慮の状況等について集計を行った。

なお、集計は基本的には大学4年生・大学院2年生を分けて行ったが、集計度数が比較的少なくなってしまう部分については両者を合わせて集計した。また、主に就職活動の時期等に関する集計結果については、平成27年度に実施した「就職・採用活動時期の後ろ倒しに係る学生の就職活動等調査」及び平成28年度に実施した「就職・採用活動開始時期変更に係る学生の就職活動等調査」⁷との比較を行い、回答傾向の違いについて把握した。

2. 就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等

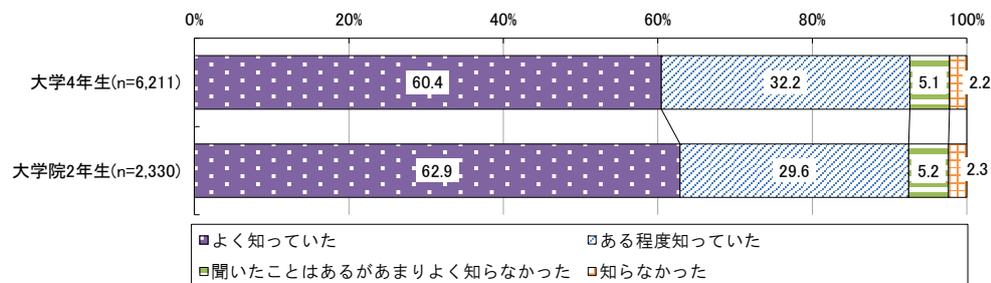
(1) 就職活動時期に関する認知の状況

① 就職活動時期に関する認知度

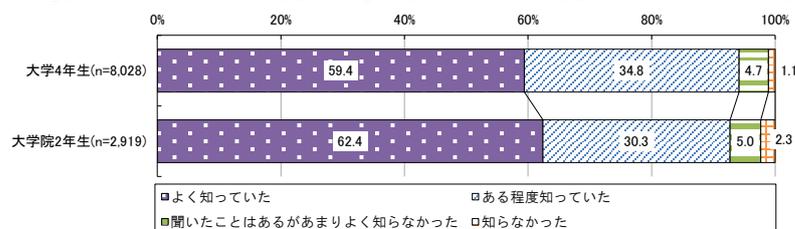
就職活動を開始するにあたり、就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程（広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降）で行われることについて知っていたかをたずねたところ、大学4年生・大学院2年生ともに、「よく知っていた」との回答は6割以上となっており、「ある程度知っていた」の回答との合計は9割以上になっている。

なお、平成28年度調査において就職活動時期変更について知っていたかをたずねた設問への回答結果と比較すると、大学4年生・大学院2年生ともに、平成28年度調査と今年度調査とではほぼ同様の結果となっている⁸。

図表 2-1-1 就職活動時期に関する認知度



図表 2-1-2 【参考・平成28年度調査】就職活動時期変更に関する認知度



⁷ それぞれ、「平成27年度調査」「平成28年度調査」と表記し、両調査をあわせて「過年度調査」と表記する。また、今回実施した「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」を「今年度調査」と表記する。

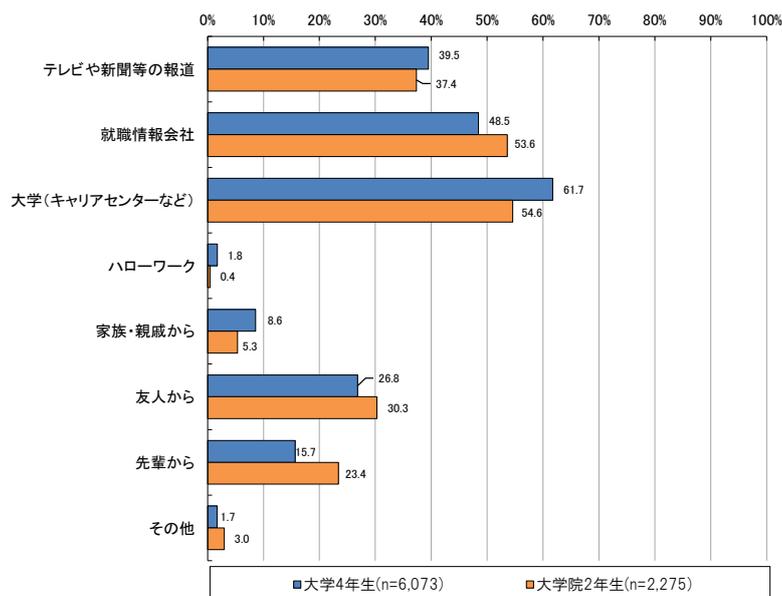
⁸ 平成28年度調査・今年度調査ともに、「就職活動を行った（終えた）」「就職活動を行っている（継続している）」「これから就職活動を行う予定である」と回答した者が集計対象で、「就職活動を行わなかった（行う予定はない）」と回答した者は集計の対象外とした。

②就職活動の時期に関する情報源

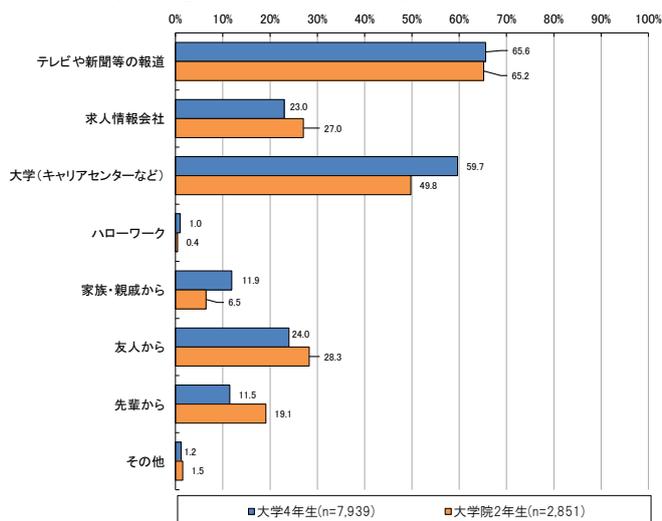
どのようなルートで就職・採用活動の時期に関する情報を知ったかをたずねたところ⁹、大学4年生・大学院2年生ともに、「大学（キャリアセンターなど）」の回答が5割以上と最も高く、次いで「就職情報会社」の割合が高くなっている。

なお、平成28年度調査において就職活動時期変更に関する情報をどのようなルートで知ったかをたずねた設問への回答結果と比較すると、今年度調査においては、大学4年生・大学院2年生ともに、「テレビや新聞等の報道」の割合が低く、「大学（キャリアセンターなど）」の割合が高くなっている。

図表 2-1-3 就職活動時期に関する情報源（複数回答）



図表 2-1-4 【参考・平成28年度調査】就職活動時期変更に関する情報源（複数回答）

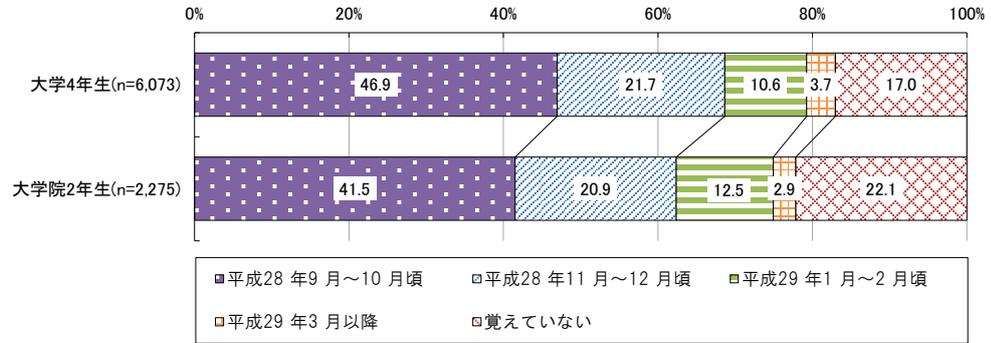


⁹ 就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程で行われることについて「よく知っていた」「ある程度知っていた」「聞いたことはあるがあまりよく知らなかった」と回答した者が集計の対象で、「知らなかった」と回答したものは集計の対象外とした。

③就職活動時期に関する情報を知った時期

いつ頃就職・採用活動の時期に関する情報を知ったかをたずねたところ¹⁰、大学4年生・大学院2年生ともに、「平成28年9月～10月頃」の割合が最も高く、4割以上となっている。

図表 2-1-5 就職活動時期に関する情報を知った時期



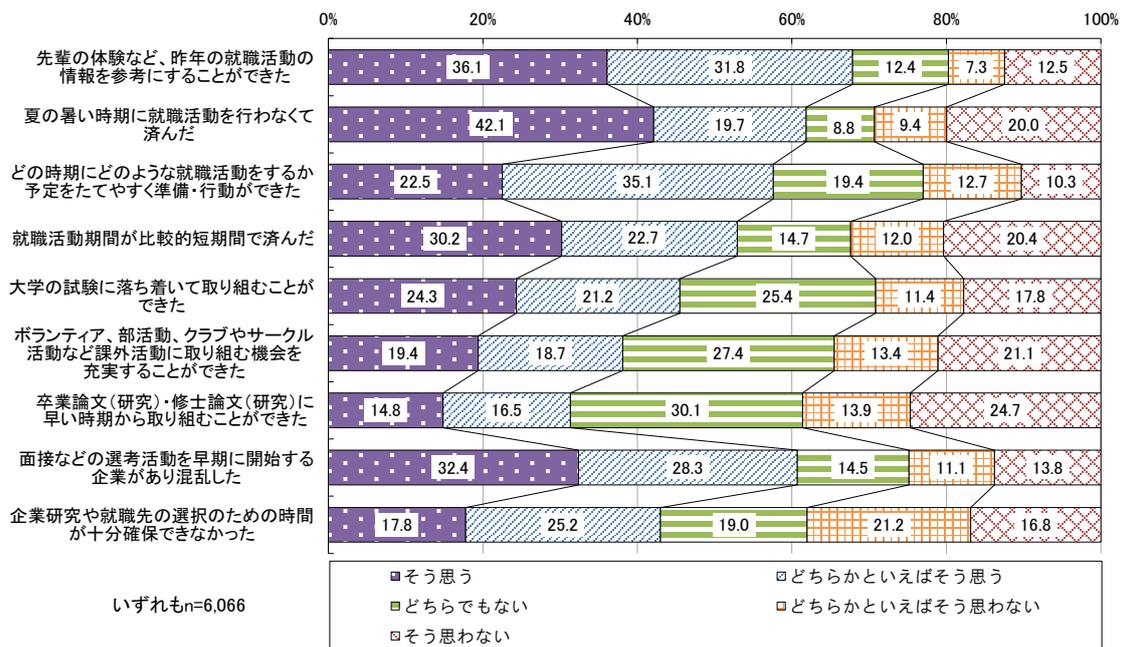
¹⁰ 就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程で行われることについて「よく知っていた」「ある程度知っていた」「聞いたことはあるがあまりよく知らなかった」と回答した者が集計の対象で、「知らなかった」と回答したものは集計の対象外とした。

(2) 就職活動時期に関する認識

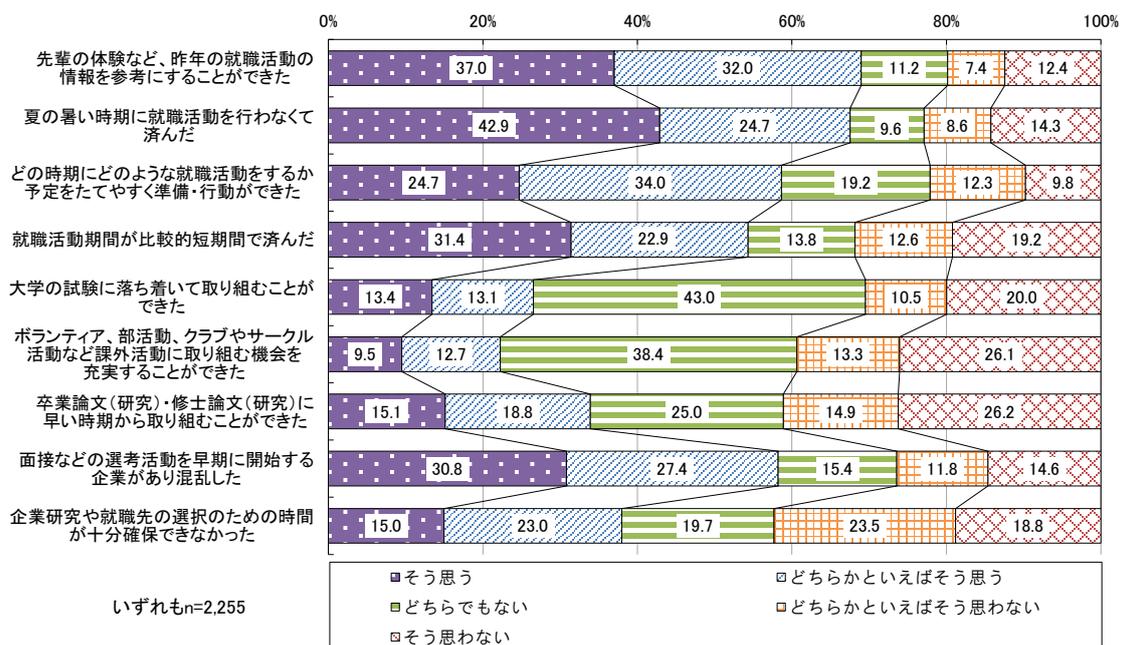
就職・採用活動の時期が昨年度と同様の時期に設定された（広報活動は本年3月1日以降、採用選考活動は本年6月1日以降に開始）ことについてどのように思ったかをたずねた。

大学4年生・大学院2年生ともに、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」や「夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ」などの点で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が比較的高かった一方で、「面接などの選考活動を早期に開始する企業があり混乱した」についても同様の回答割合が高かった。

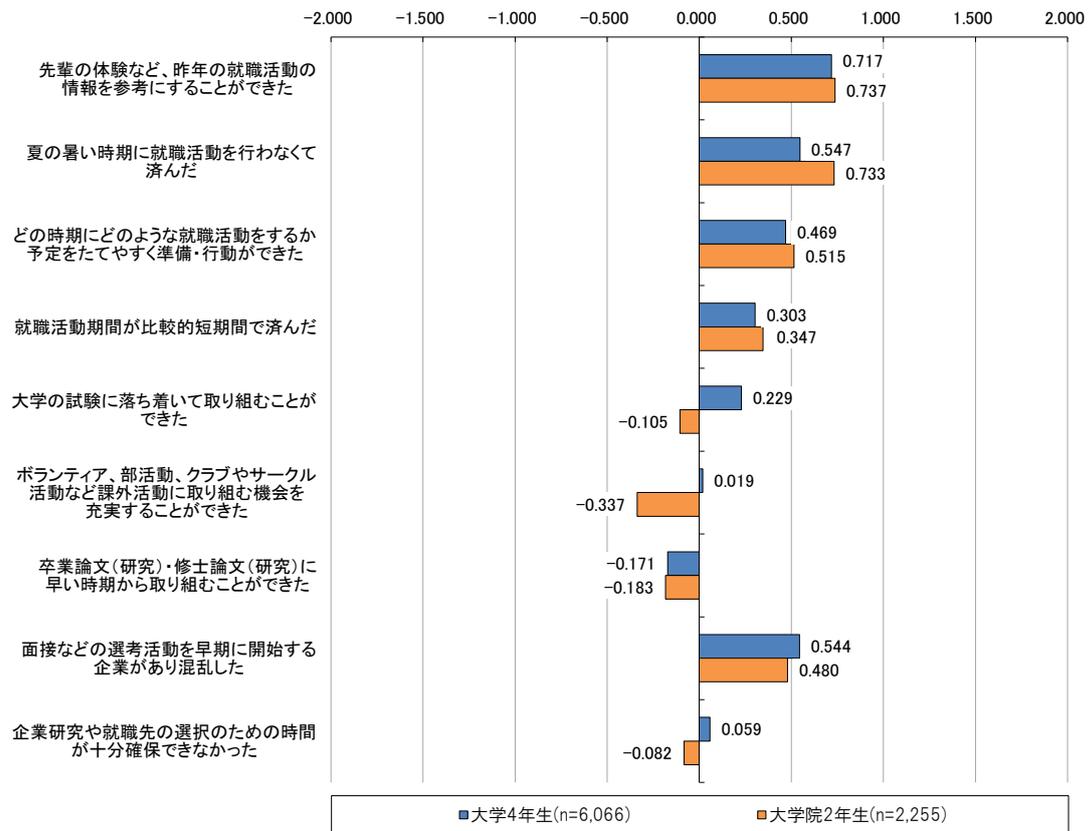
図表 2-2-1 就職活動時期に関する認識（大学4年生）



図表 2-2-2 就職活動時期に関する認識（大学院2年生）



図表 2-2-3 就職活動時期に関する認識（得点化による集計）¹¹



¹¹ それぞれの設問について、「そう思う」を2点、「どちらかといえばそう思う」を1点、「どちらでもない」を0点、「どちらかといえばそう思わない」を-1点、「そう思わない」を-2点として、平均値を算出した。

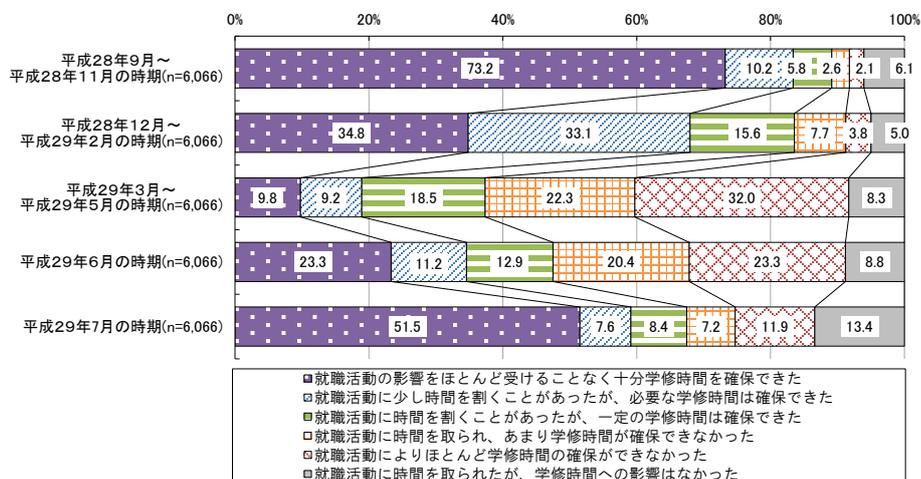
(3) 就職活動と学修時間確保の状況

就職活動と学修時間確保の状況について、平成28年9月以降の状況をたずねた。

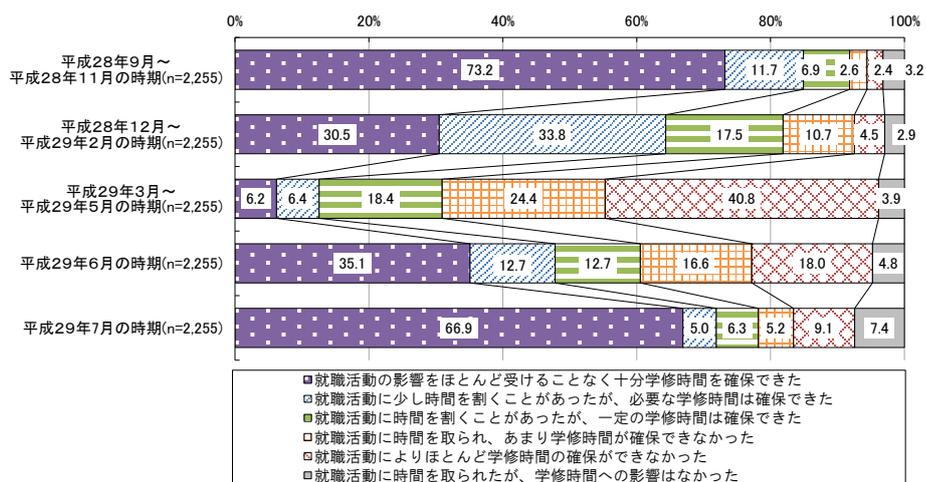
「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」と「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合は、大学4年生・大学院2年生ともに、広報活動開始時期前の2月までは8割以上と高くなっており、広報活動開始時期後の3～5月の時期には4割以下にまで低下しているものの、採用・選考活動開始時期後の6月は大学4年生で約5割、大学院2年生で約6割、7月はそれぞれ約7割・約8割まで高くなっている。

採用・選考活動開始時期が8月とされていた平成27年度調査と比較すると、今年度調査は平成28年度調査と同様に、6月・7月の時期に学修時間が確保できたと回答した割合が2倍程度の時期もあるなど高くなっている。また、平成28年度調査と比較すると、6月以降の時期は今年度調査のほうが高く、特に大学院2年生においては1割以上高くなっている。

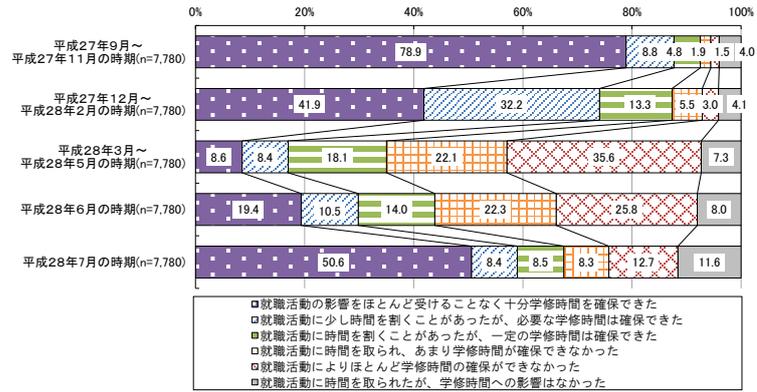
図表 2-3-1 就職活動と学修時間確保の状況（大学4年生）



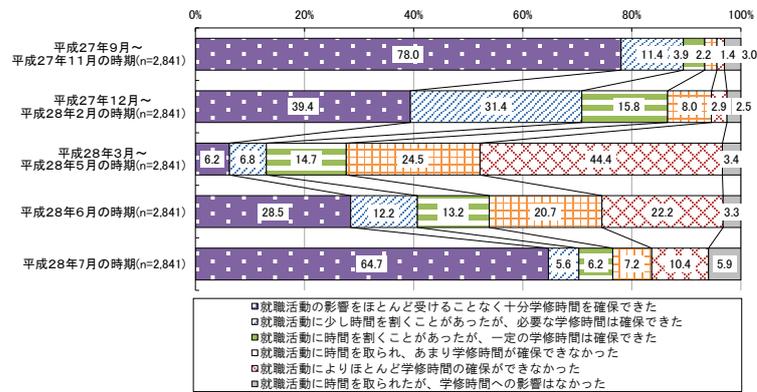
図表 2-3-2 就職活動と学修時間確保の状況（大学院2年生）



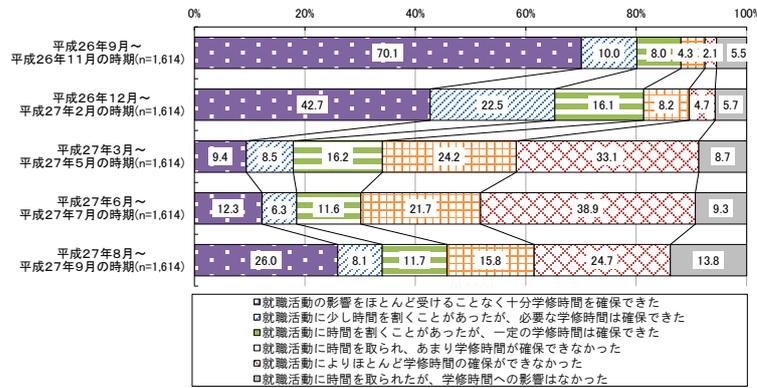
図表 2-3-3 【参考・平成 28 年度調査】 就職活動と学修時間確保の状況
 <大学 4 年生>



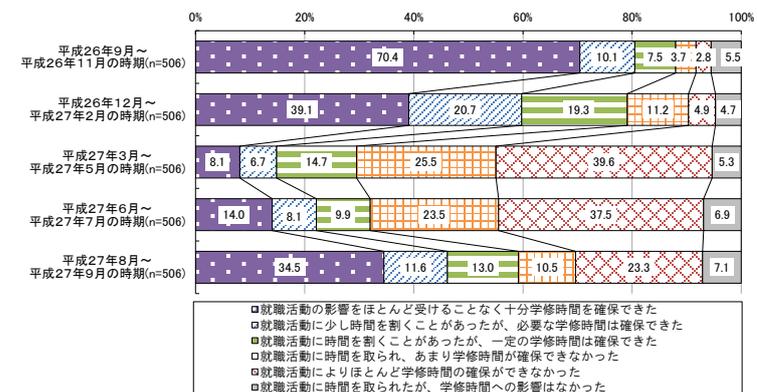
<大学院 2 年生>



図表 2-3-4 【参考・平成 27 年度調査】 就職活動と学修時間確保の状況
 <大学 4 年生>

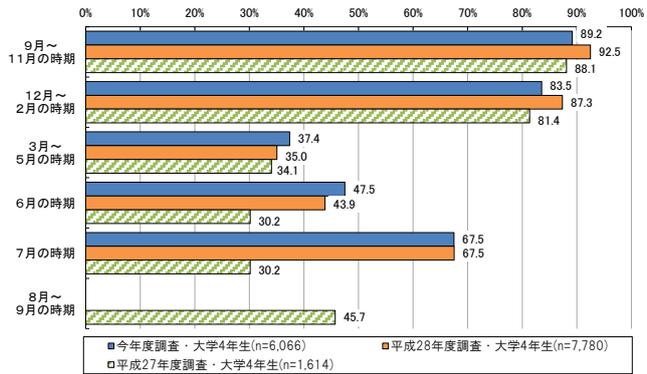


<大学院 2 年生>

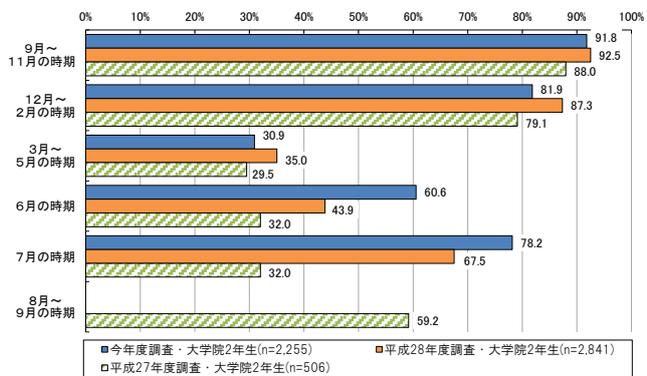


図表 2-3-5 【参考・過年度調査との比較】 就職活動と学修時間確保の状況

<大学4年生>



<大学院2年生>



※「十分学修時間を確保できた」「必要な学修時間は確保できた」「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

※「6月の時期」「7月の時期」は、平成27年度は「6月～7月の時期」として調査を実施（図表にはそれぞれ同じ値を掲載）

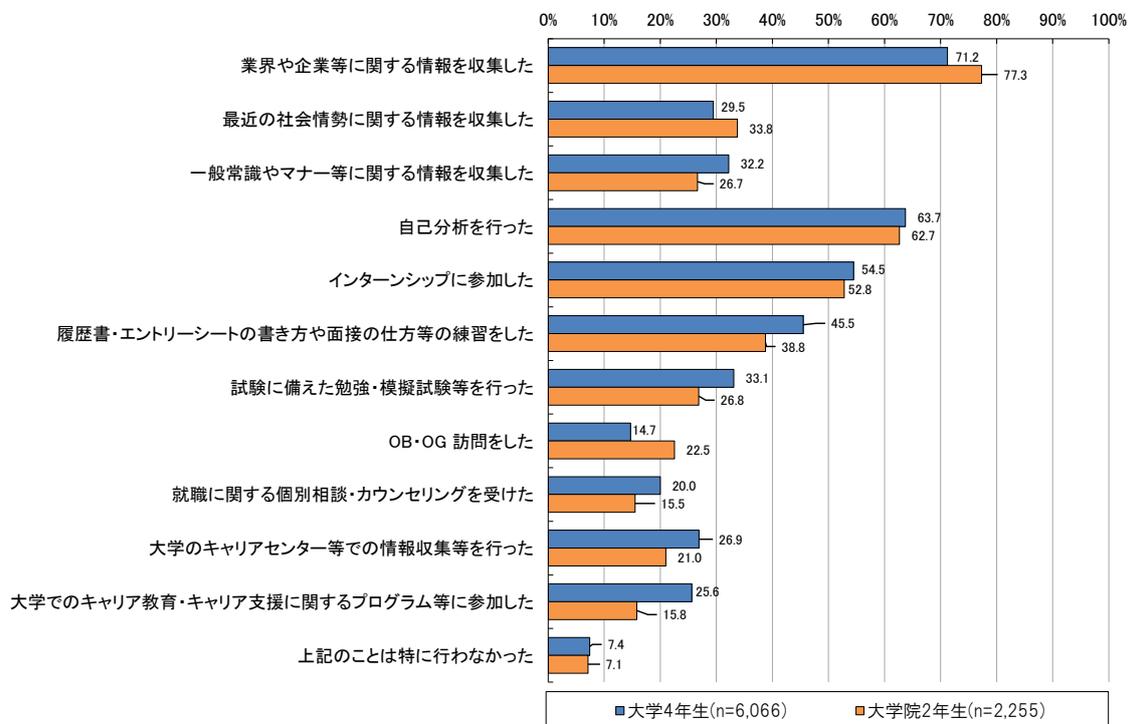
3. 就職活動内容

(1) 企業の広報活動開始前の活動状況

就職活動を行うに当たり、企業の広報活動が開始になる3月1日より前の時期にどのような活動をしたかをたずねたところ、大学4年生・大学院2年生ともに、「業界や企業等に関する情報を収集した」の回答割合が最も高く、次いで「自己分析を行った」「インターンシップに参加した」「履歴書・エントリーシートの書き方や面接の仕方等の練習をした」の順で回答割合が高くなっている。

なお、大学4年生について、「就職に関する個別相談・カウンセリングを受けた」「大学のキャリアセンター等での情報収集等を行った」「大学でのキャリア教育・キャリア支援に関するプログラム等に参加した」の回答割合は2~3割程度で、それぞれ大学院2年生よりも高くなっている。

図表 3-1-1 企業の広報活動開始前の活動状況（複数回答）

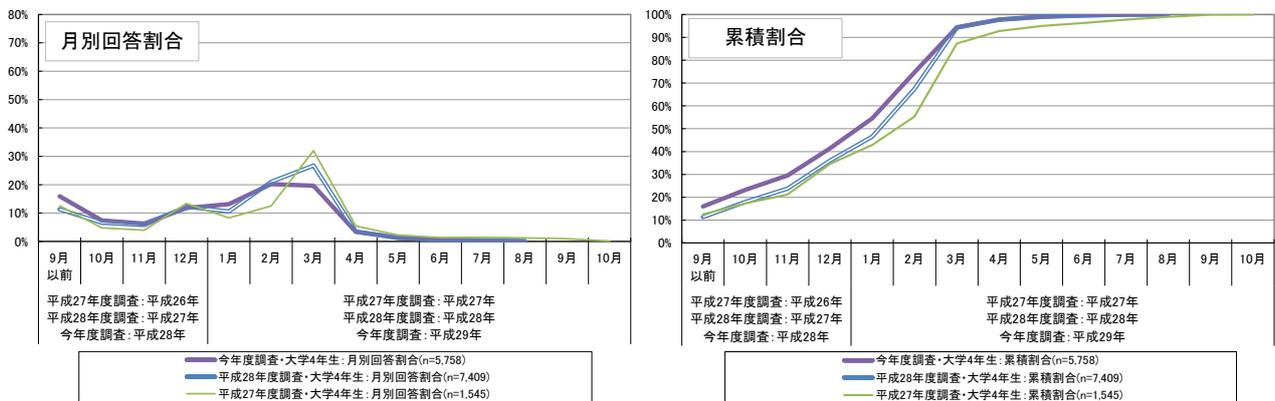


(2) 業界や企業に関する分析を開始した時期

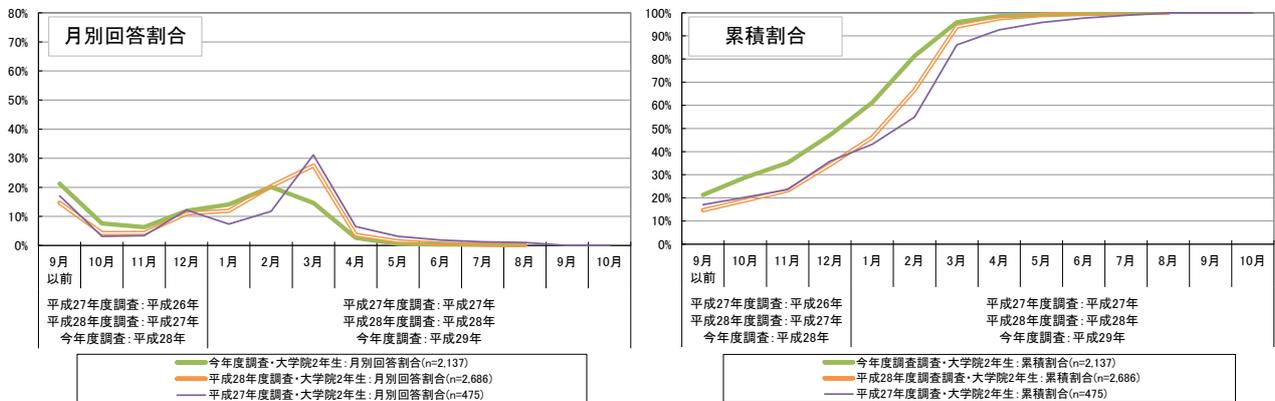
いつごろから業界や企業に関する分析を開始したかをたずねたところ、大学4年生では「平成29年2月」と「平成29年3月」の回答割合が約2割と高く、次いで「平成28年9月以前」の回答割合が高くなっている¹²。大学院2年生では、「平成28年9月以前」と「平成29年2月」の回答割合が約2割と高くなっている。

過年度調査と比較すると、大学4年生・大学院2年生ともに、過年度調査では「3月」との回答割合が最も高かったが、今年度調査では「2月」との回答割合が最も高く、また、「9月以前」など、より早期の回答割合が高くなっており、全体的に時期が早まっている。

図表 3-2-1 業界や企業に関する分析を開始した時期（大学4年生）



図表 3-2-2 業界や企業に関する分析を開始した時期（大学院2年生）



図表 3-2-3 業界や企業に関する分析を開始した時期（詳細データ）

<大学4年生>

	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	15.9%	7.4%	6.3%	11.8%	13.1%	20.2%	19.7%	3.4%	1.3%	0.6%	0.3%	0.0%
累積割合	15.9%	23.3%	29.6%	41.4%	54.5%	74.7%	94.4%	97.7%	99.1%	99.7%	100.0%	100.0%

<大学院2年生>

	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	21.3%	7.6%	6.3%	11.9%	14.1%	20.1%	14.6%	2.6%	0.6%	0.4%	0.3%	0.2%
累積割合	21.3%	28.9%	35.2%	47.1%	61.2%	81.3%	95.9%	98.5%	99.1%	99.5%	99.8%	100.0%

¹² 業界や企業に関する分析について「特段行わなかった」と回答した者（大学4年生：308件、大学院2年生：119件）は、ここでは集計の対象外とした。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

(3) 企業説明会やセミナー等の参加時期

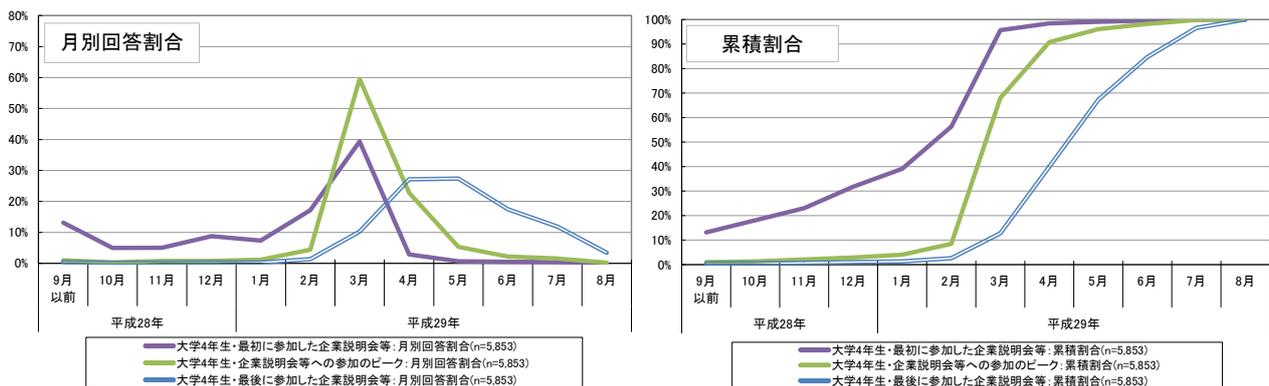
企業説明会やセミナー等について、「最初に参加した時期」「参加のピーク」「最後に参加した時期」をそれぞれたずねた¹³。

「最初に参加した時期」については、大学4年生・大学院2年生ともに、広報活動開始時期である「平成29年3月」との回答割合が約4割と最も高くなっている。また、「参加のピーク」についても、大学4年生の約6割、大学院2年生の約7割が「平成29年3月」と回答しており最も割合が高い。

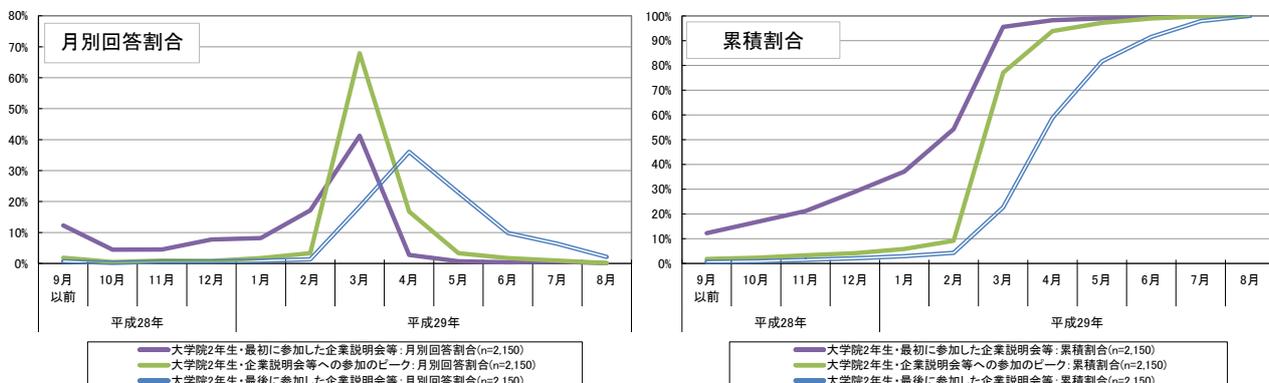
「最後に参加した時期」については、大学4年生では「平成29年4月」と「平成29年5月」の回答割合が約3割となっており、大学院2年生では「平成29年4月」との回答割合が約4割と最も高くなっている。

これら企業説明会やセミナー等の参加時期について過年度調査と比較すると、「最初に参加した時期」「参加のピーク」「最後に参加した時期」のいずれについても、回答割合が最も高い月は平成28年度調査と今年度調査とで同一であるが、累積割合で見ると、今年度調査ではより早期の回答割合が高くなっている。

図表 3-3-1 企業説明会やセミナー等の参加時期（大学4年生）



図表 3-3-2 企業説明会やセミナー等の参加時期（大学院2年生）



¹³ 企業説明会やセミナー等に「特段参加しなかった」と回答した者（大学4年生：214件、大学院2年生：105件）は、ここでは集計の対象外とした。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

図表 3-3-3 企業説明会やセミナー等の参加時期（詳細データ）

<大学4年生>

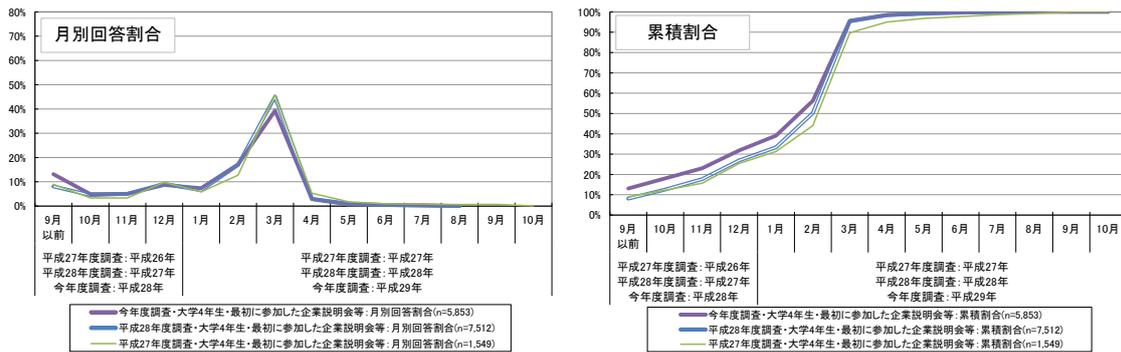
最初の参加	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	13.1%	4.9%	5.0%	8.7%	7.3%	17.2%	39.3%	2.8%	0.7%	0.5%	0.4%	0.0%
累積割合	13.1%	18.1%	23.1%	31.8%	39.1%	56.3%	95.6%	98.5%	99.1%	99.6%	100.0%	100.0%
参加のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	1.0%	0.3%	0.8%	0.8%	1.2%	4.4%	59.5%	22.8%	5.3%	2.2%	1.6%	0.2%
累積割合	1.0%	1.3%	2.1%	2.9%	4.0%	8.4%	68.0%	90.8%	96.1%	98.3%	99.8%	100.0%
最後の参加	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	1.3%	10.2%	27.1%	27.4%	17.4%	11.9%	3.4%
累積割合	0.4%	0.6%	0.8%	1.0%	1.3%	2.6%	12.8%	39.9%	67.3%	84.7%	96.6%	100.0%

<大学院2年生>

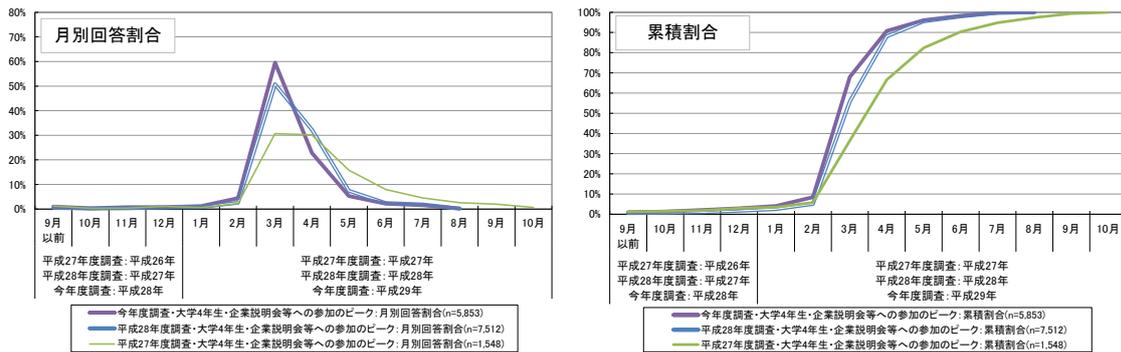
最初の参加	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	12.3%	4.4%	4.5%	7.7%	8.2%	17.1%	41.2%	2.7%	0.7%	0.3%	0.6%	0.1%
累積割合	12.3%	16.7%	21.2%	29.0%	37.1%	54.3%	95.5%	98.3%	99.0%	99.3%	99.9%	100.0%
参加のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	1.8%	0.5%	1.0%	0.8%	1.7%	3.3%	67.9%	16.8%	3.3%	1.7%	0.9%	0.2%
累積割合	1.8%	2.3%	3.3%	4.1%	5.9%	9.2%	77.1%	93.9%	97.2%	98.9%	99.8%	100.0%
最後の参加	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.7%	0.2%	0.6%	0.7%	0.9%	1.3%	18.4%	36.1%	22.9%	9.9%	6.4%	2.1%
累積割合	0.7%	0.9%	1.5%	2.1%	3.0%	4.3%	22.7%	58.8%	81.7%	91.5%	97.9%	100.0%

図表 3-3-4 【参考・過年度調査との比較】企業説明会やセミナー等の参加時期（大学4年生）

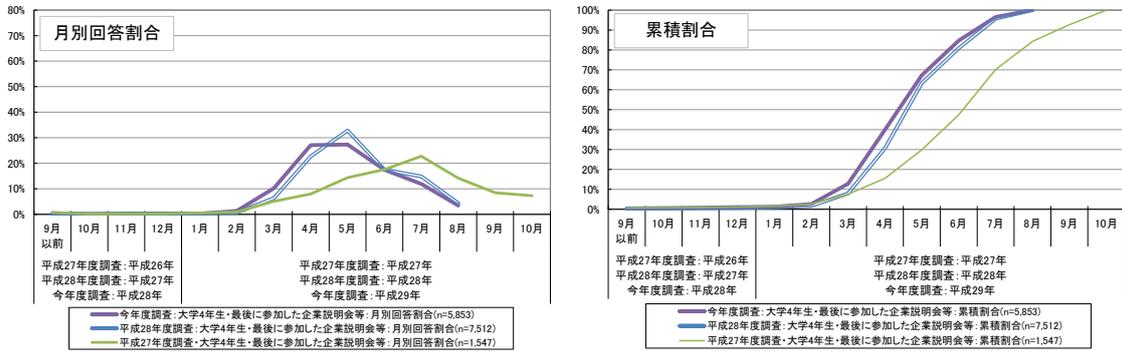
<最初に参加した時期>



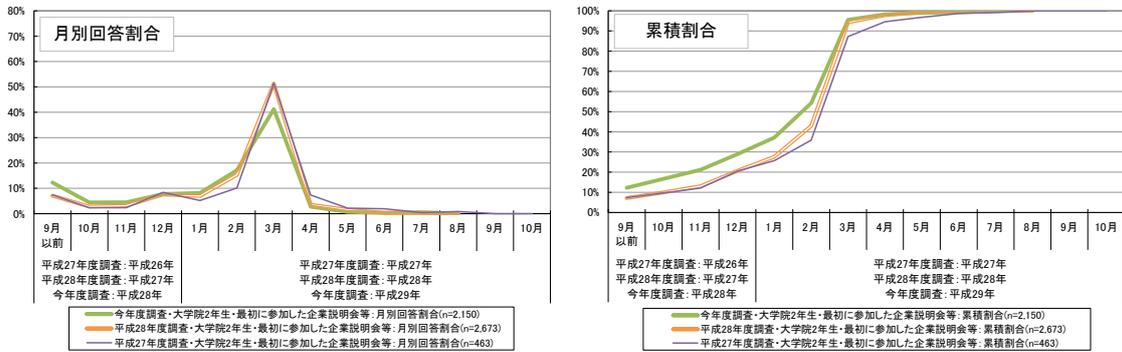
<参加のピーク>



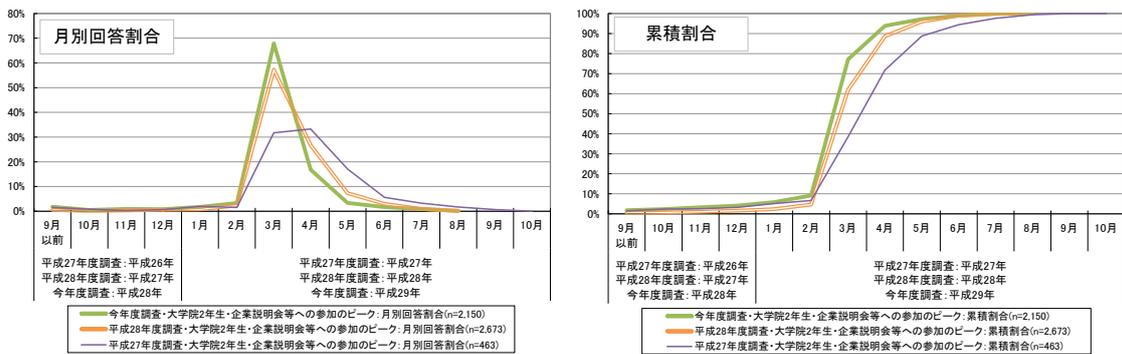
図表 3-3-4 【参考・過年度調査との比較】企業説明会やセミナー等の参加時期
(大学4年生)
＜最後に参加した時期＞



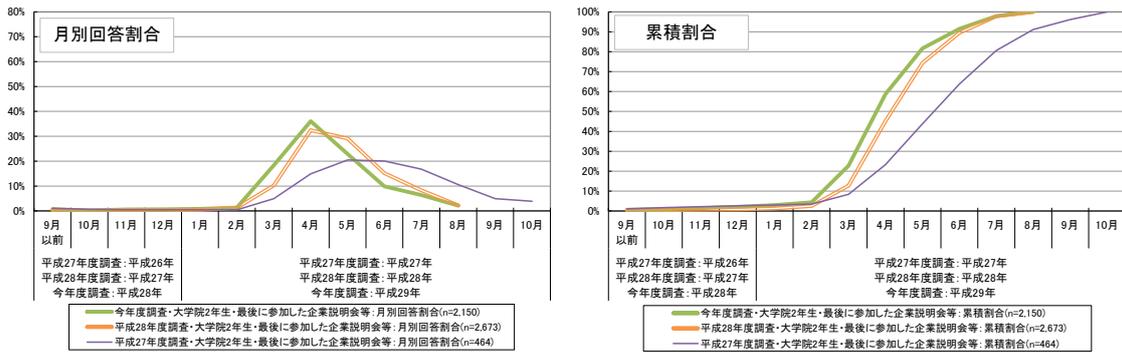
図表 3-3-5 【参考・過年度調査との比較】企業説明会やセミナー等の参加時期
(大学院2年生)
＜最初に参加した時期＞



＜参加のピーク＞



＜最後に参加した時期＞



(4) エントリーシートの提出時期

エントリーシートの提出¹⁴時期について、「最初に提出した時期」「提出のピーク」「最後に提出した時期」をそれぞれたずねた¹⁵。

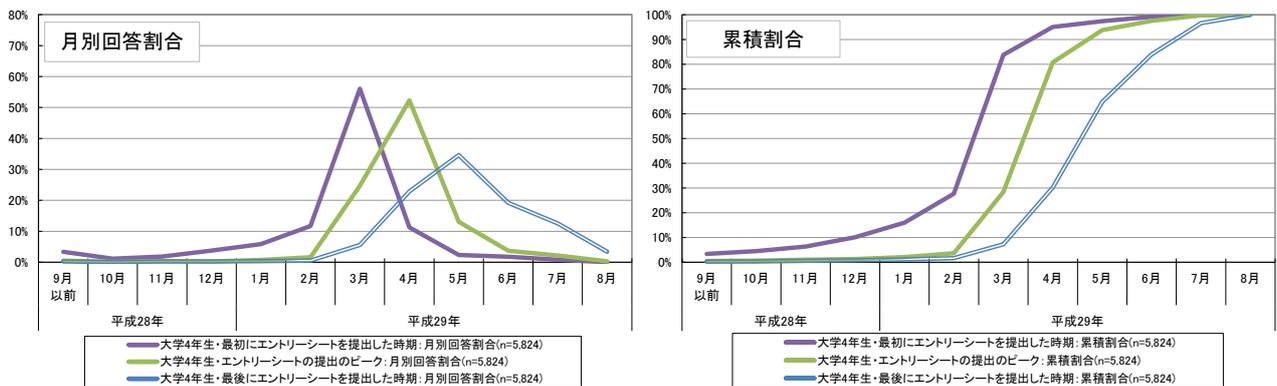
「最初に提出した時期」については、大学4年生・大学院2年生ともに、「平成29年3月」との回答割合が5割以上と最も高くなっている。

「提出のピーク」については、大学4年生では「平成29年4月」との回答割合が5割以上と最も高く、大学院2年生では「平成29年3月」と「平成29年4月」が約4割となっている。

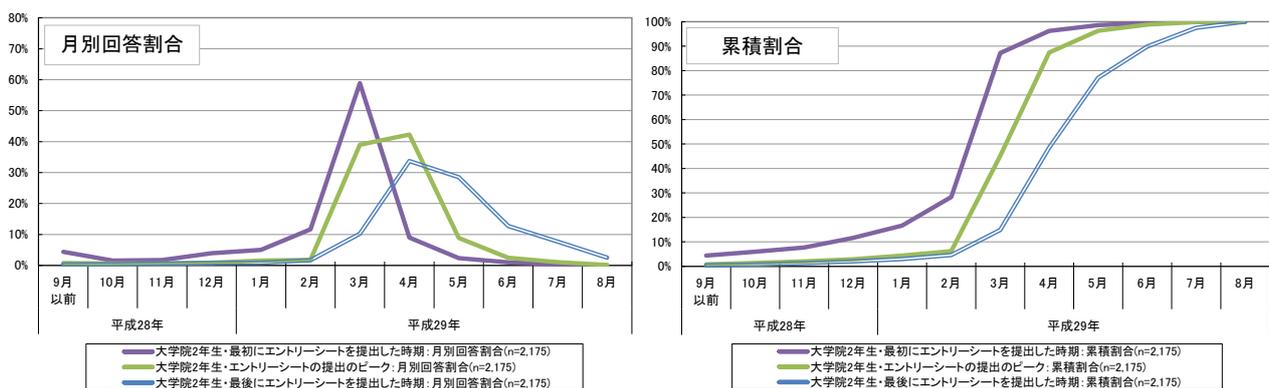
「最後に提出した時期」については、大学4年生では「平成29年5月」との回答割合が約3割、大学院2年生では「平成29年4月」との回答割合が約3割と最も高い。

これらエントリーシートの提出時期について平成28年度調査と比較すると、「最初に提出した時期」「提出のピーク」「最後に提出した時期」のいずれについても、今年度調査ではより早期の回答割合が高くなっており、特に大学院2年生に関してその傾向が見られる。

図表 3-4-1 エントリーシートの提出時期（大学4年生）



図表 3-4-2 エントリーシートの提出時期（大学院2年生）



14 エントリーシートの提出とは、企業や官公庁などの採用選考に参加するための応募シートを提出することを指すものとし、就職情報会社のサイト等への登録のみの場合は提出数に入れないように、回答者に案内した上で調査を行った。

15 エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者（大学4年生：242件、大学院2年生：80件）は、ここでは集計の対象外とした。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

図表 3-4-3 エントリーシートの提出時期（詳細データ）

<大学4年生>

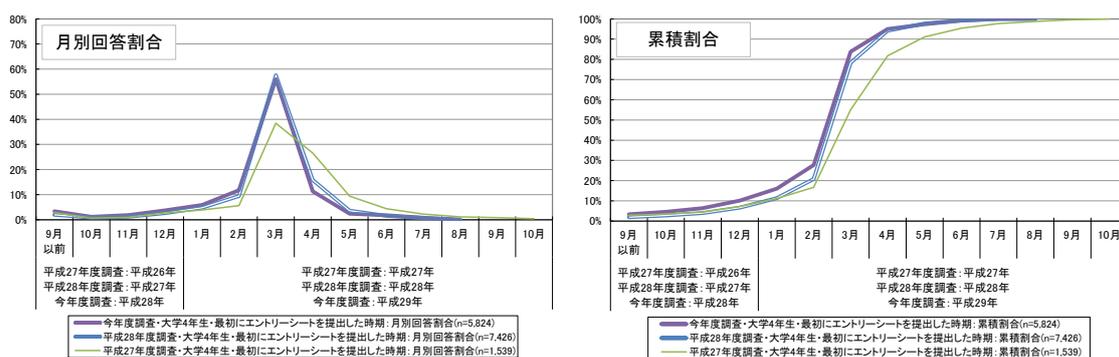
最初の提出	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	3.4%	1.2%	1.8%	3.8%	5.9%	11.7%	56.0%	11.3%	2.4%	1.8%	0.8%	0.0%
累積割合	3.4%	4.5%	6.4%	10.1%	16.0%	27.7%	83.7%	95.0%	97.4%	99.2%	100.0%	100.0%
提出のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.5%	0.2%	0.4%	0.2%	0.8%	1.6%	24.7%	52.3%	13.1%	3.7%	2.2%	0.3%
累積割合	0.5%	0.7%	1.1%	1.3%	2.1%	3.7%	28.4%	80.7%	93.8%	97.5%	99.7%	100.0%
最後の提出	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.3%	0.1%	0.2%	0.2%	0.4%	0.5%	5.6%	22.9%	34.6%	19.2%	12.6%	3.4%
累積割合	0.3%	0.4%	0.6%	0.8%	1.2%	1.7%	7.3%	30.2%	64.8%	84.0%	96.6%	100.0%

<大学院2年生>

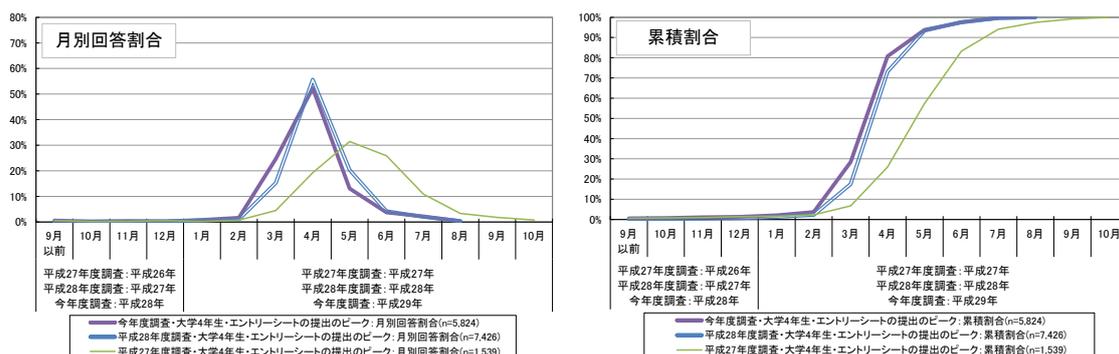
最初の提出	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	4.4%	1.5%	1.7%	3.9%	5.0%	11.7%	58.9%	9.0%	2.4%	1.0%	0.3%	0.1%
累積割合	4.4%	6.0%	7.7%	11.6%	16.6%	28.3%	87.2%	96.2%	98.6%	99.6%	99.9%	100.0%
提出のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.8%	0.6%	0.6%	0.9%	1.5%	1.8%	39.0%	42.3%	8.9%	2.5%	1.1%	0.1%
累積割合	0.8%	1.4%	2.0%	2.9%	4.4%	6.2%	45.2%	87.4%	96.3%	98.8%	99.9%	100.0%
最後の提出	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.3%	0.4%	0.6%	0.7%	0.9%	1.7%	10.3%	33.7%	28.5%	12.8%	7.7%	2.5%
累積割合	0.3%	0.7%	1.3%	2.0%	2.9%	4.6%	14.8%	48.6%	77.1%	89.8%	97.5%	100.0%

図表 3-4-4 【参考・過年度調査との比較】エントリーシートの提出時期
(大学4年生)

<最初に提出した時期>

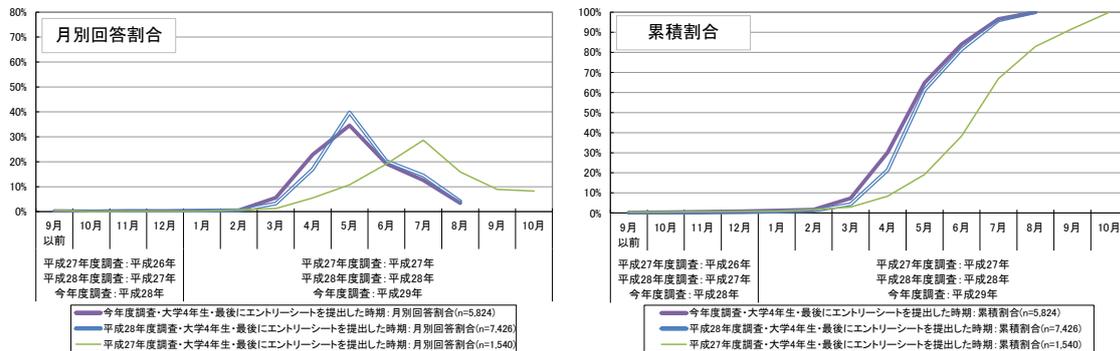


<提出のピーク>



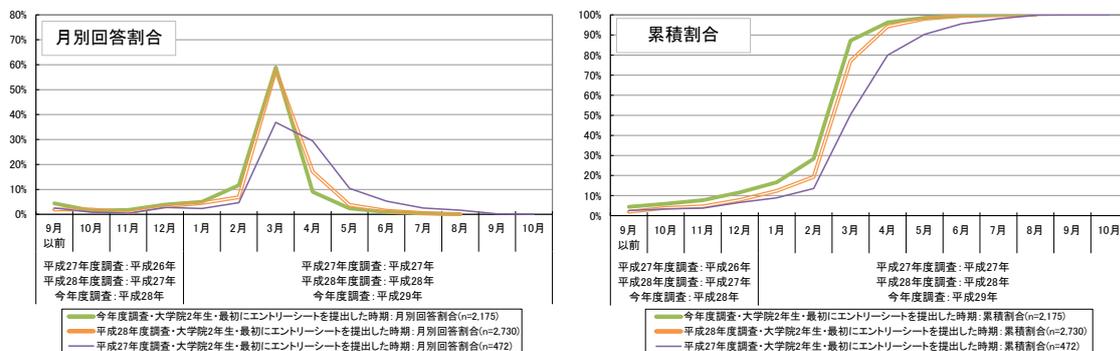
図表 3-4-4 【参考・過年度調査との比較】エントリーシートの提出時期
(大学4年生)

<最後に提出した時期>

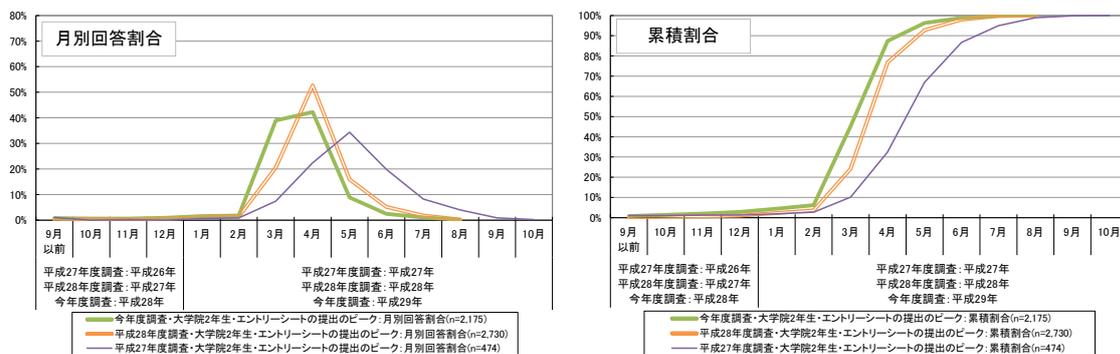


図表 3-4-5 【参考・過年度調査との比較】エントリーシートの提出時期
(大学院2年生)

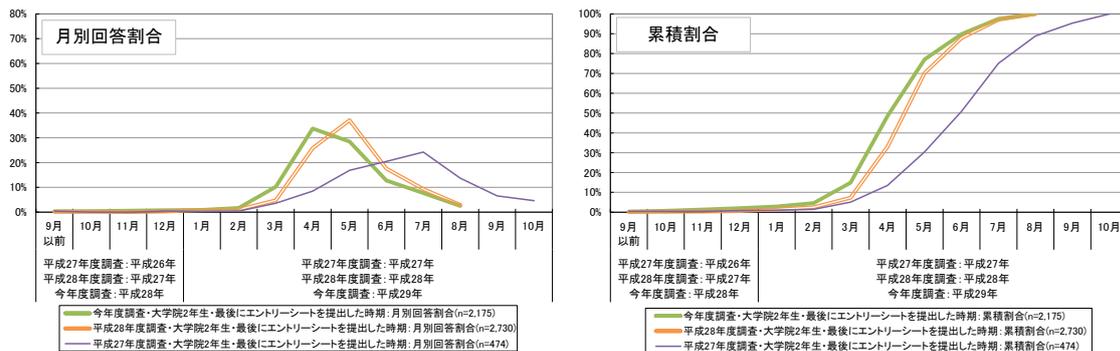
<最初に提出した時期>



<提出のピーク>



<最後に提出した時期>



(5) 採用面接の実施時期

①月別の回答状況

採用面接¹⁶の時期について、「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」をそれぞれたずねた¹⁷。

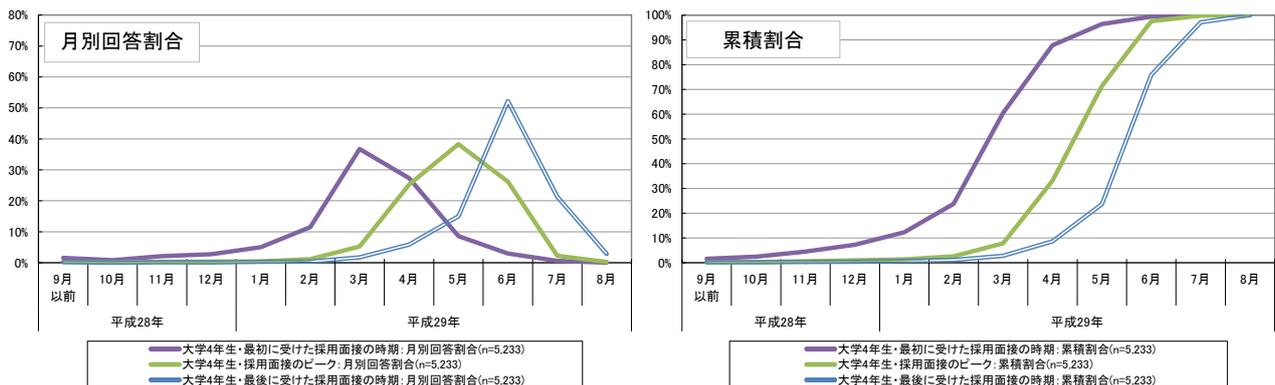
「最初に受けた採用面接の時期」については、大学4年生と大学院2年生ともに、広報活動開始時期である「平成29年3月」との回答割合が約4割で最も高く、次いで「平成29年4月」が約3割と高い。

「採用面接のピーク」については、最も回答割合が高い月が採用・選考活動開始時期である「平成29年6月」の前にきており、大学4年生では「平成29年5月」との回答割合が約4割で最も高く、次いで「平成29年6月」と4月が約3割と高く、また、大学院2年生では「平成29年4月」が約4割で最も高く、次いで5月が約3割と高い。

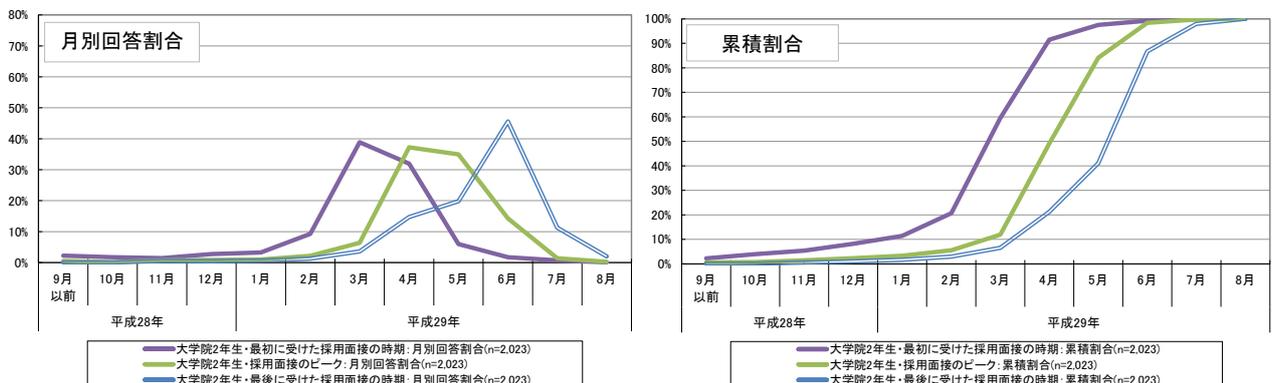
「最後に受けた採用面接の時期」については、大学4年生と大学院2年生ともに、採用・選考活動開始時期である「平成29年6月」に約5割と最も高くなっている。

なお、全体的に、平成28年度調査と同様の傾向にあるが、時期が若干早まっている。

図表 3-5-1 採用面接の実施時期（大学4年生、公務員・教職員志望者除く）



図表 3-5-2 採用面接の実施時期（大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）



¹⁶ 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で調査を行った。

¹⁷ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点（8月1日時点）において採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者（大学4年生182件、大学院2年生59件）は、集計の対象外とした。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

図表 3-5-3 採用面接の実施時期（詳細データ）

<大学4年生（公務員・教職員志望者除く）>

最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	1.6%	0.8%	2.1%	2.8%	5.0%	11.5%	36.7%	27.3%	8.6%	3.0%	0.6%	0.0%
累積割合	1.6%	2.4%	4.5%	7.3%	12.3%	23.8%	60.5%	87.8%	96.4%	99.4%	100.0%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%	0.4%	1.2%	5.2%	25.3%	38.3%	26.2%	2.2%	0.2%
累積割合	0.2%	0.3%	0.6%	1.0%	1.4%	2.6%	7.8%	33.1%	71.4%	97.6%	99.8%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.2%	0.0%	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	1.7%	5.8%	15.0%	52.2%	21.3%	2.9%
累積割合	0.2%	0.2%	0.3%	0.4%	0.7%	1.1%	2.8%	8.7%	23.6%	75.8%	97.1%	100.0%

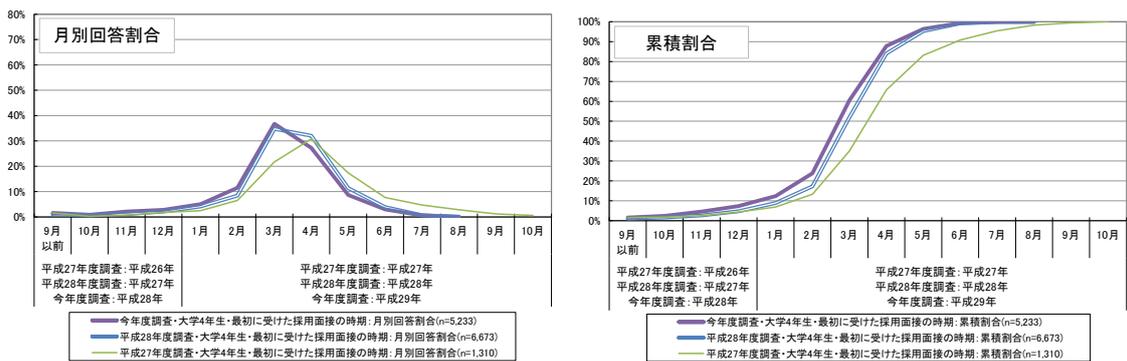
<大学院2年生（公務員・教職員志望者除く）>

最初の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	2.2%	1.7%	1.5%	2.8%	3.3%	9.3%	38.9%	31.9%	6.0%	1.7%	0.7%	0.1%
累積割合	2.2%	3.9%	5.4%	8.2%	11.4%	20.7%	59.5%	91.5%	97.5%	99.2%	99.9%	100.0%
面接のピーク	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.6%	0.2%	0.7%	0.9%	1.0%	2.2%	6.4%	37.2%	34.9%	14.3%	1.4%	0.2%
累積割合	0.6%	0.7%	1.4%	2.3%	3.3%	5.5%	11.9%	49.1%	84.1%	98.4%	99.8%	100.0%
最後の面接	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.1%	0.0%	0.6%	0.4%	0.6%	1.3%	3.6%	14.7%	19.8%	45.6%	11.3%	2.0%
累積割合	0.1%	0.1%	0.6%	1.0%	1.7%	2.9%	6.6%	21.3%	41.1%	86.7%	98.0%	100.0%

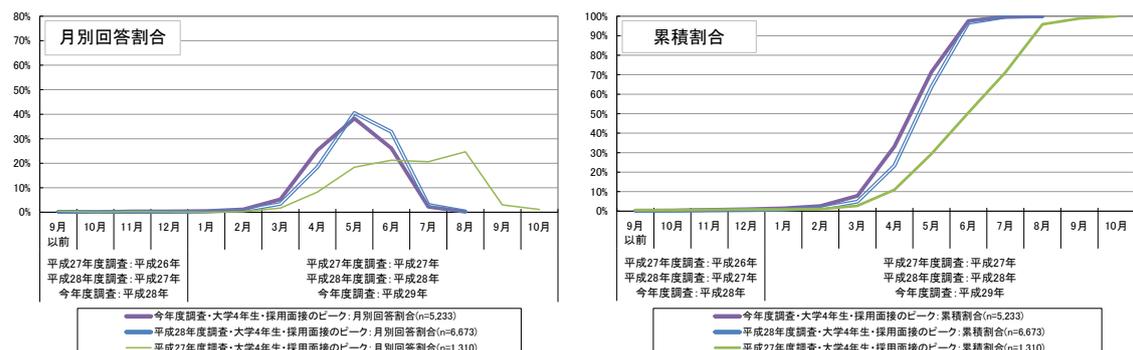
図表 3-5-4 【参考・過年度調査との比較】採用面接の実施時期

（大学4年生、公務員・教職員志望者除く）

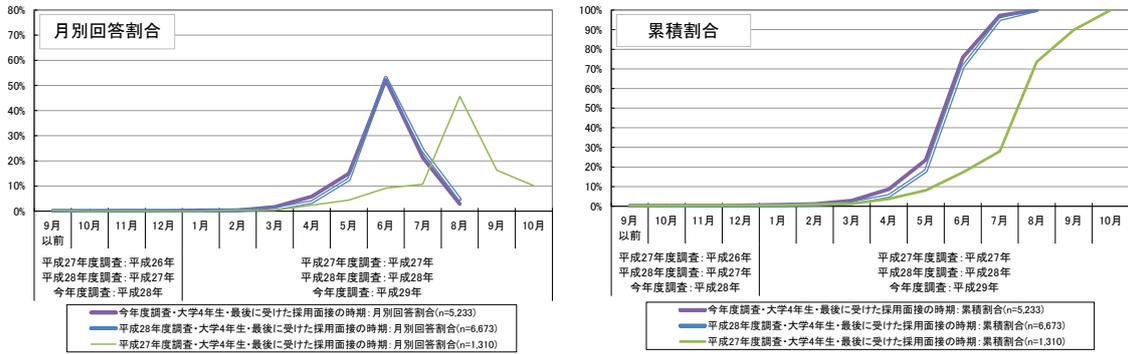
<最初に受けた採用面接の時期>



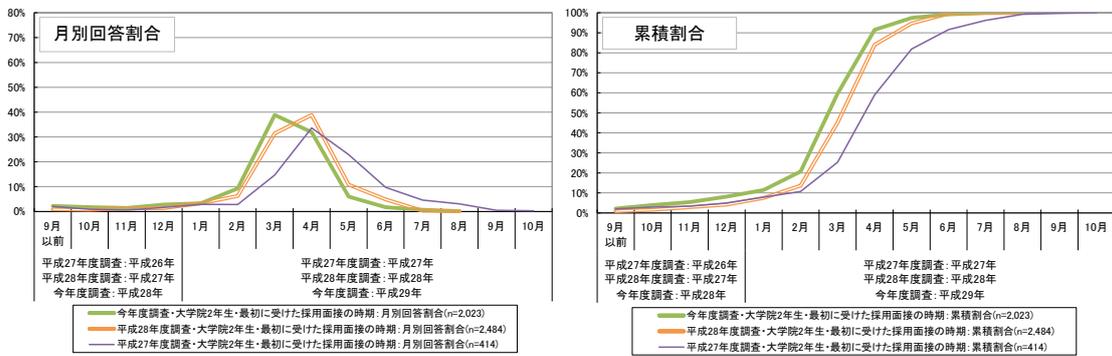
<採用面接のピーク>



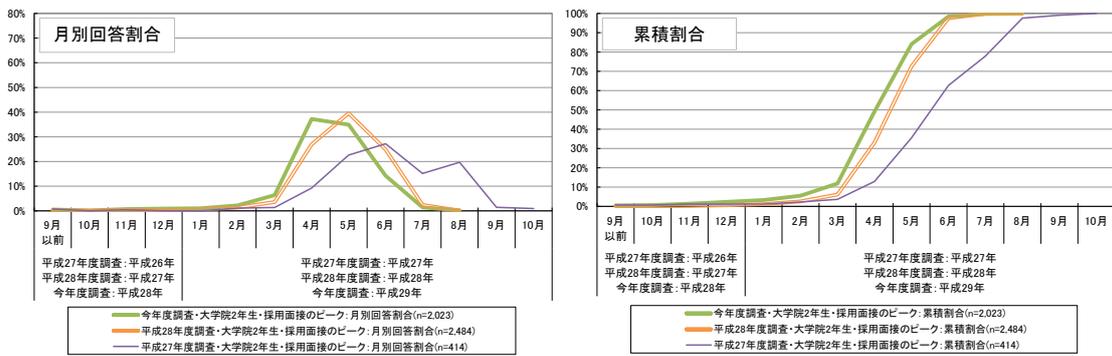
図表 3-5-4 【参考・過年度調査との比較】採用面接の実施時期
 (大学4年生、公務員・教職員志望者除く)
 <最後に受けた採用面接の時期>



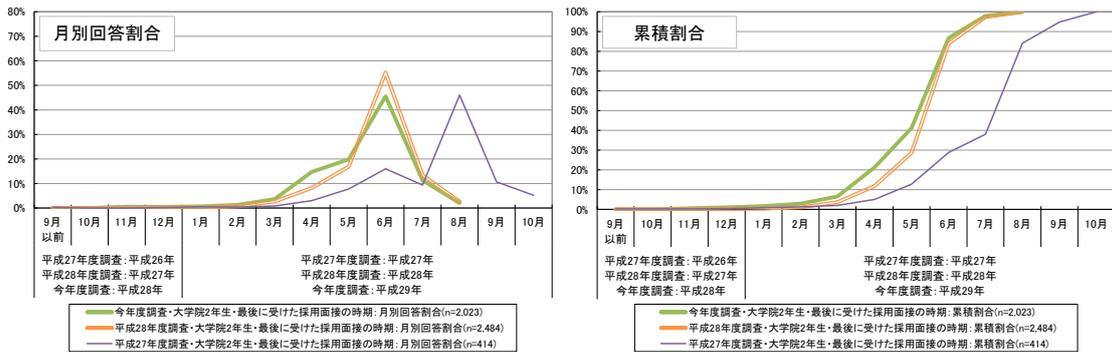
図表 3-5-5 【参考・過年度調査との比較】採用面接の実施時期
 (大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)
 <最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



<最後に受けた採用面接の時期>

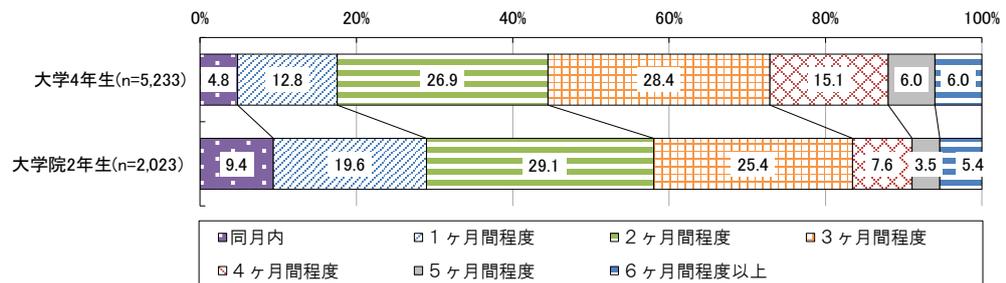


②最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

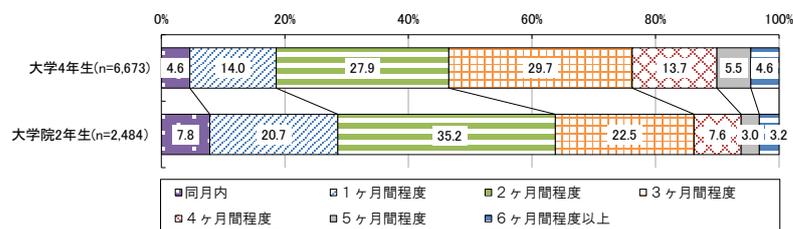
「最初に受けた採用面接の時期」¹⁸から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間について集計すると¹⁹、大学4年生では「3ヶ月程度」²⁰の割合が最も高く、次いで「2ヶ月間程度」の割合が高くなっている。大学院2年生では「2ヶ月間程度」の割合が最も高く、次いで「3ヶ月程度」の割合が高くなっている。

平成27年度調査と比較すると、大学4年生・大学院2年生ともに、平成28年度調査と同様、より短い期間となった傾向が見られる。

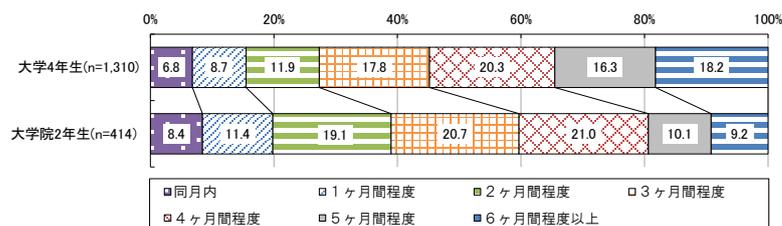
図表 3-5-6 最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(公務員・教職員志望者除く)



図表 3-5-7 【参考・平成28年度調査】最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(公務員・教職員志望者除く)



図表 3-5-8 【参考・平成27年度調査】最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(公務員・教職員志望者除く)



¹⁸採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で調査を行った。

¹⁹ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点（8月1日時点）において採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、その上で、採用面接について「特段行わなかった」と回答した者（大学4年生182件、大学院2年生59件）は、集計の対象外とした。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

²⁰ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間の長さを意味するものではない点に留意が必要である。

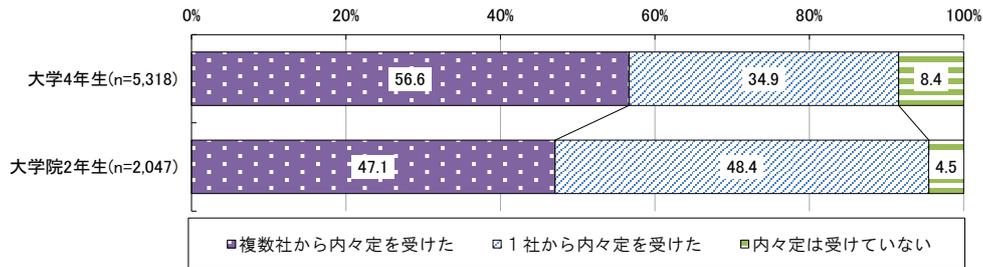
(6) 内々定の状況・内々定の時期

①8月1日時点での内々定の状況

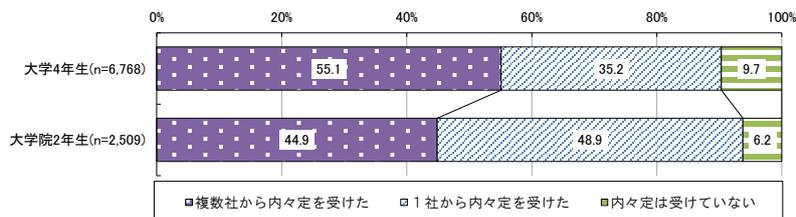
平成29年8月1日時点の内々定の状況をたずねたところ²¹、大学4年生・大学院2年生ともに9割以上が内々定を受けている状況にある。また、大学4年生では約6割、大学院2年生では約5割が「複数社から内々定を受けた」と回答している。

これらは、過年度調査とほぼ同様の結果となっている。

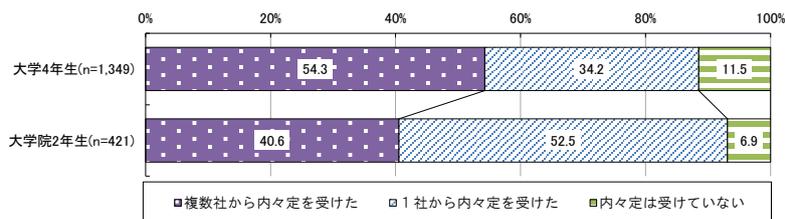
図表 3-6-1 平成29年8月1日時点での内々定の状況（公務員・教職員志望者除く）



図表 3-6-2 【参考・平成28年度調査】平成28年8月1日時点での内々定の状況（公務員・教職員志望者除く）



図表 3-6-3 【参考・平成27年度調査】平成27年10月1日時点での内々定の状況（公務員・教職員志望者除く）



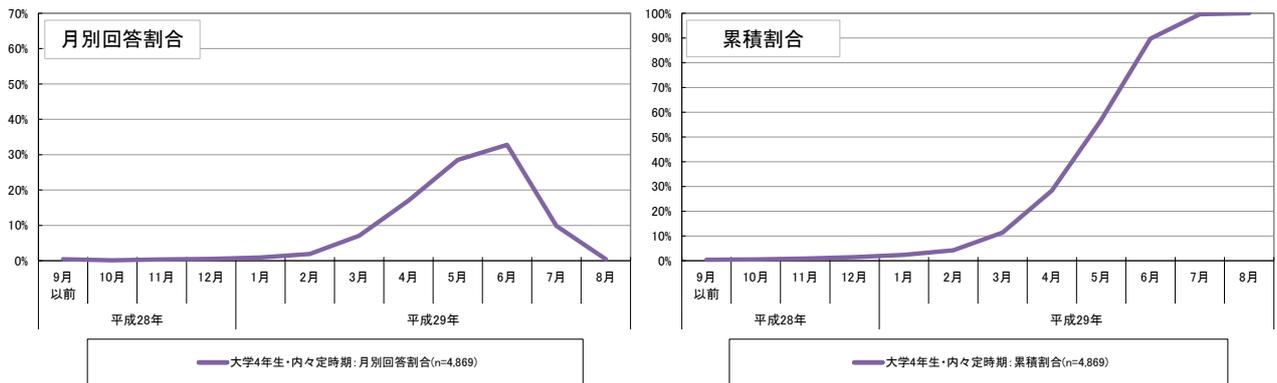
²¹ 公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点（8月1日時点）において採用の面接等が行われていないと想定されることから、ここでは、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

②内々定を受けた時期

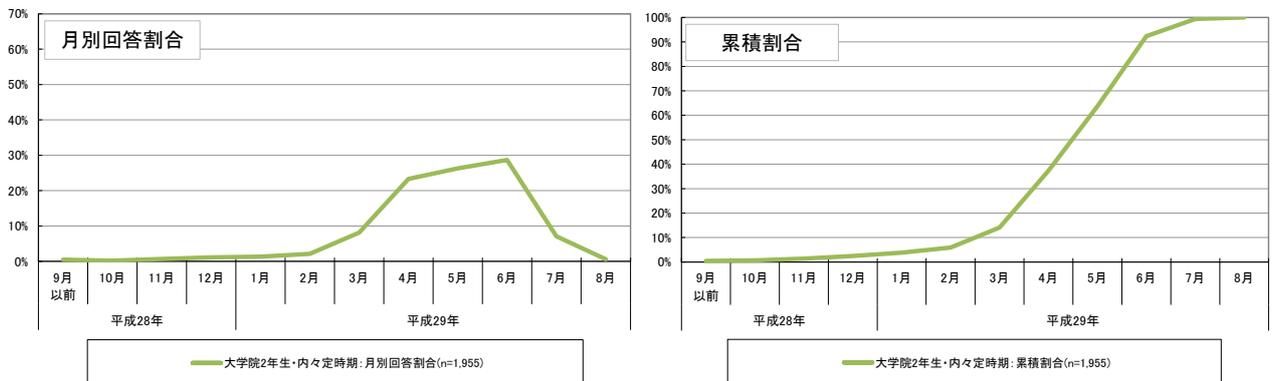
内々定を受けた時期についてみると²²、大学4年生・大学院2年生ともに「平成29年6月」との回答割合が約3割で最も高く、次いで「平成29年5月」の割合が高くなっている。なお、累積割合では、大学4年生・大学院2年生ともに5割以上が採用・選考活動時期前の平成29年5月以前に内々定を受けたと回答している。

内々定を受けた時期について平成28年度調査と今年度調査を比較すると、回答割合が最も高い月はともに6月であるが、今年度調査ではより早期の回答割合が若干高くなっている。

図表 3-6-4 内々定を受けた時期（大学4年生、公務員・教職員志望者除く）



図表 3-6-5 内々定を受けた時期（大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）



図表 3-6-6 内々定を受けた時期（詳細データ）

<大学4年生、公務員・教職員志望者除く>

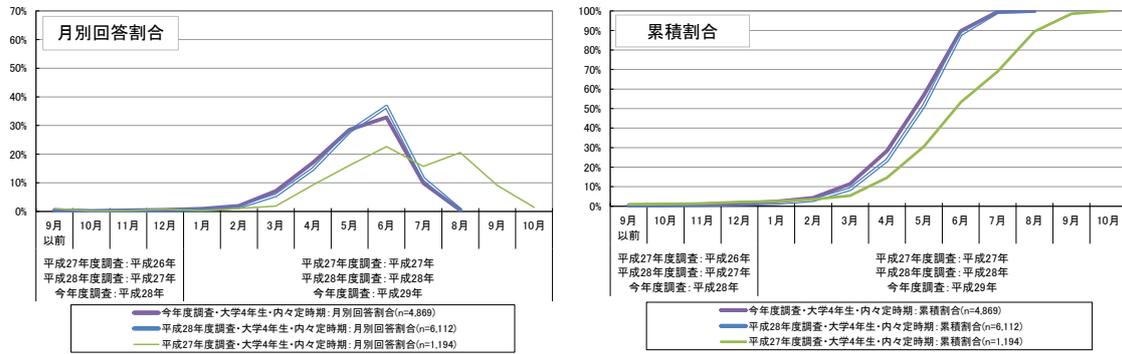
	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4%	0.1%	0.4%	0.5%	0.9%	1.9%	7.1%	17.0%	28.5%	32.8%	9.9%	0.4%
累積割合	0.4%	0.5%	0.9%	1.4%	2.4%	4.3%	11.4%	28.4%	56.9%	89.7%	99.6%	100.0%

<大学院2年生、公務員・教職員志望者除く>

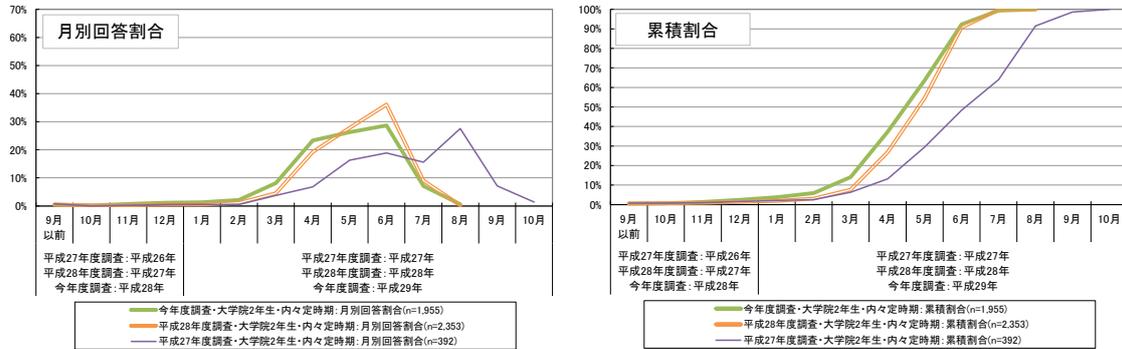
	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.5%	0.2%	0.7%	1.1%	1.3%	2.1%	8.1%	23.3%	26.3%	28.7%	7.1%	0.6%
累積割合	0.5%	0.6%	1.3%	2.5%	3.8%	5.9%	14.0%	37.3%	63.6%	92.3%	99.4%	100.0%

²² 1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、ここでの集計でも、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。過年度調査も同様に集計を行っている。

図表 3-6-7 【参考・過年度調査との比較】内々定を受けた時期
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



図表 3-6-8 【参考・過年度調査との比較】内々定を受けた時期
(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)



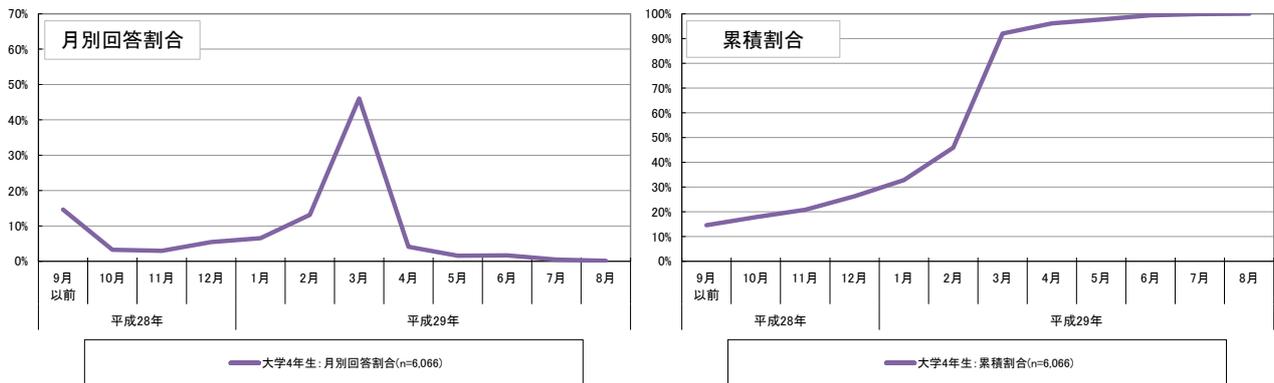
(7) 就職活動の始まりと終わりの認識

①就職活動の始まりの時期についての認識

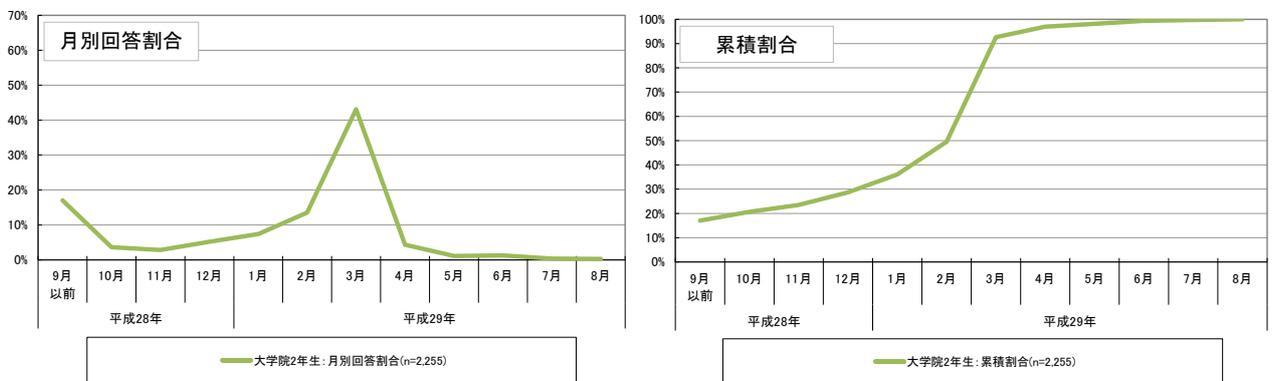
回答者自身の認識として、「就職活動が始まったと考える時期」についてたずねたところ、大学4年生・大学院2年生ともに「平成29年3月」との回答割合が4割以上と最も高くなっている。

過年度調査と比較すると、今年度調査では3月との回答割合が最も高いのは同様であるが、累積割合で見ると、9月以前との回答割合が増えるなど、2月以前と回答した者の割合がより高くなっている。

図表 3-7-1 就職活動が始まったと考える時期（大学4年生）



図表 3-7-2 就職活動が始まったと考える時期（大学院2年生）



図表 3-7-3 就職活動が始まったと考える時期（詳細データ）

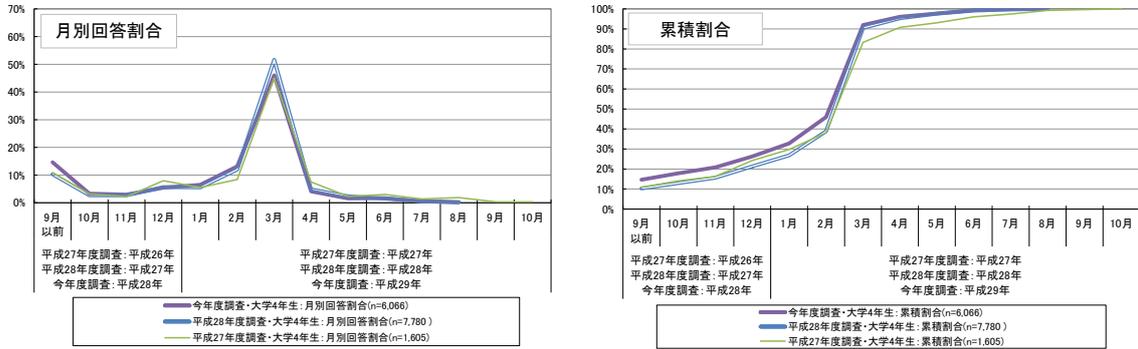
<大学4年生>

	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	14.6%	3.3%	3.0%	5.4%	6.5%	13.1%	46.0%	4.1%	1.6%	1.7%	0.5%	0.2%
累積割合	14.6%	17.9%	20.8%	26.3%	32.8%	45.9%	92.0%	96.1%	97.7%	99.4%	99.8%	100.0%

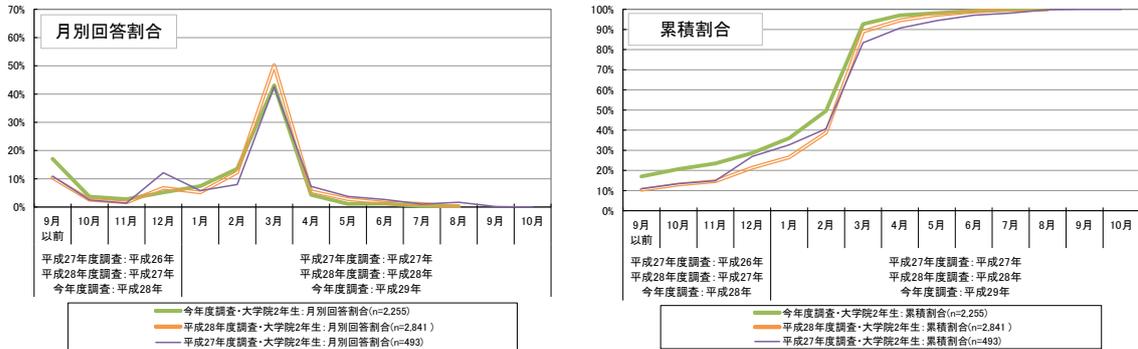
<大学院2年生>

	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	17.0%	3.6%	2.8%	5.2%	7.4%	13.5%	43.1%	4.3%	1.1%	1.2%	0.4%	0.3%
累積割合	17.0%	20.7%	23.5%	28.7%	36.0%	49.6%	92.7%	97.0%	98.1%	99.3%	99.7%	100.0%

図表 3-7-4 【参考・過年度調査との比較】就職活動が始まったと考える時期
(大学4年生)



図表 3-7-5 【参考・過年度調査との比較】就職活動が始まったと考える時期
(大学院2年生)

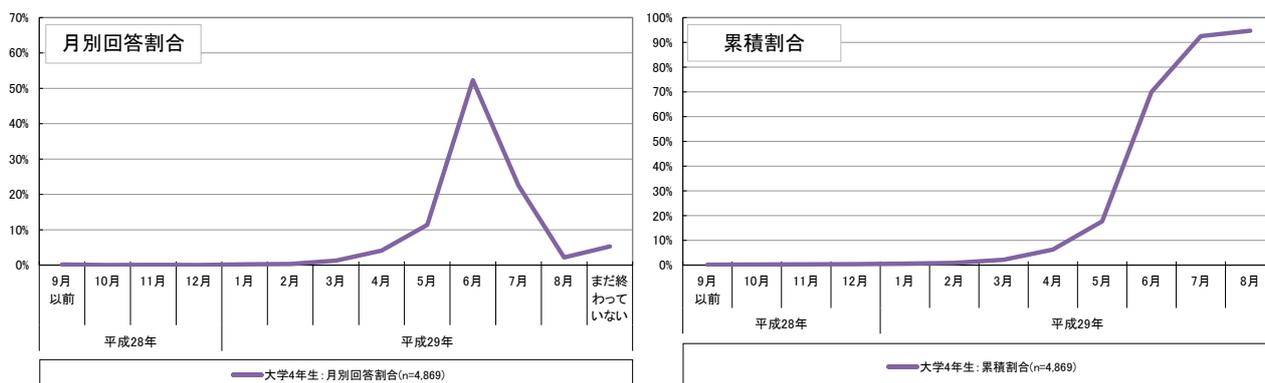


②就職活動の終わりの時期についての認識

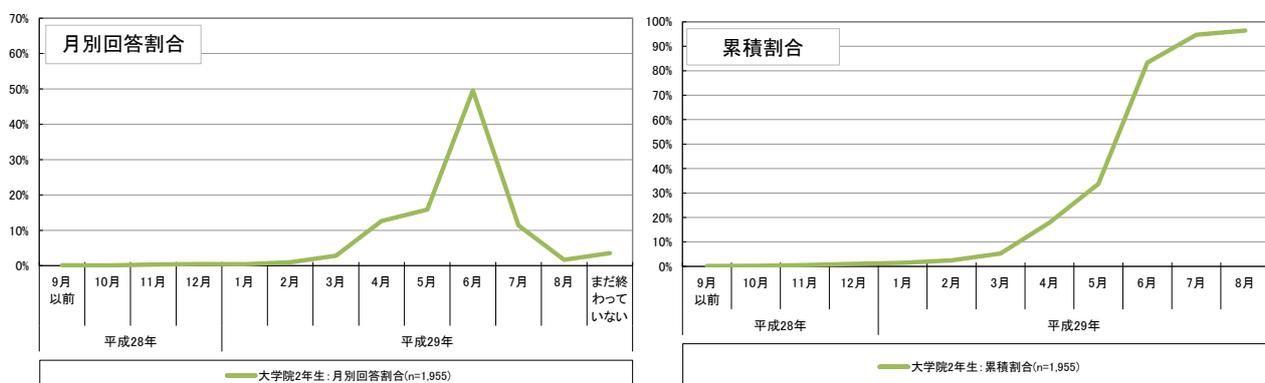
平成 29 年 8 月 1 日時点で内々定を 1 社以上受けたと回答した者²³に対して、「就職活動が終わったと考える時期」についてたずねたところ、大学 4 年生・大学院 2 年生ともに、「平成 29 年 6 月」との回答割合が約 5 割となっている。なお、累積割合²⁴では、平成 29 年 5 月以前に就職活動が終わったと回答しているのは大学 4 年生で約 2 割、大学院 2 年生では約 3 割となっている。

平成 28 年度調査と比較すると、大学 4 年生ではほぼ同様の結果となっているが、大学院 2 年生では今年度調査ではより早期の回答割合が高くなっている。

図表 3-7-6 就職活動が終わったと考える時期（大学 4 年生、公務員・教職員志望者除く）



図表 3-7-7 就職活動が終わったと考える時期（大学院 2 年生、公務員・教職員志望者除く）



²³ ここでは、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

²⁴ 「まだ終わっていない」と回答した者がいるため、「平成 29 年 8 月」の時点でも累積割合のグラフは 100%にならない。(図表 3-7-9、3-7-10 においても同じ)

図表 3-7-8 就職活動が終わったと考える時期（詳細データ）

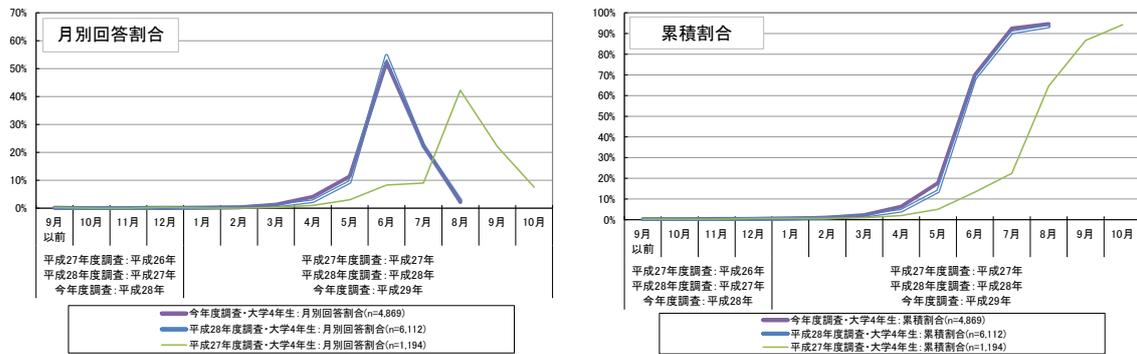
＜大学4年生、公務員・教職員志望者除く＞

	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終わっていない
月別回答割合	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.3%	1.3%	4.1%	11.4%	52.3%	22.5%	2.2%	5.3%
累積割合	0.2%	0.2%	0.3%	0.4%	0.6%	0.9%	2.2%	6.3%	17.7%	70.0%	92.5%	94.7%	—

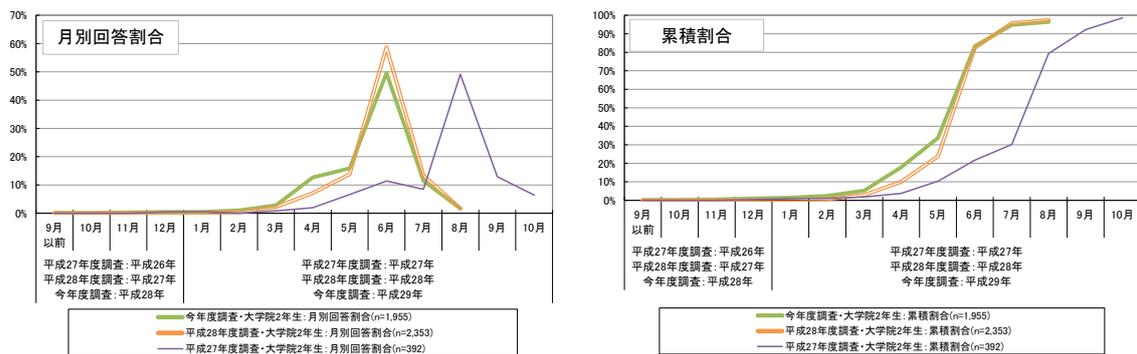
＜大学院2年生、公務員・教職員志望者除く＞

	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	まだ終わっていない
月別回答割合	0.2%	0.1%	0.3%	0.5%	0.5%	1.0%	2.8%	12.6%	15.9%	49.6%	11.4%	1.7%	3.6%
累積割合	0.2%	0.2%	0.5%	1.0%	1.5%	2.5%	5.2%	17.9%	33.7%	83.3%	94.7%	96.4%	—

図表 3-7-9 【参考・過年度調査との比較】就職活動が終わったと考える時期
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)



図表 3-7-10 【参考・過年度調査との比較】就職活動が終わったと考える時期
(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)

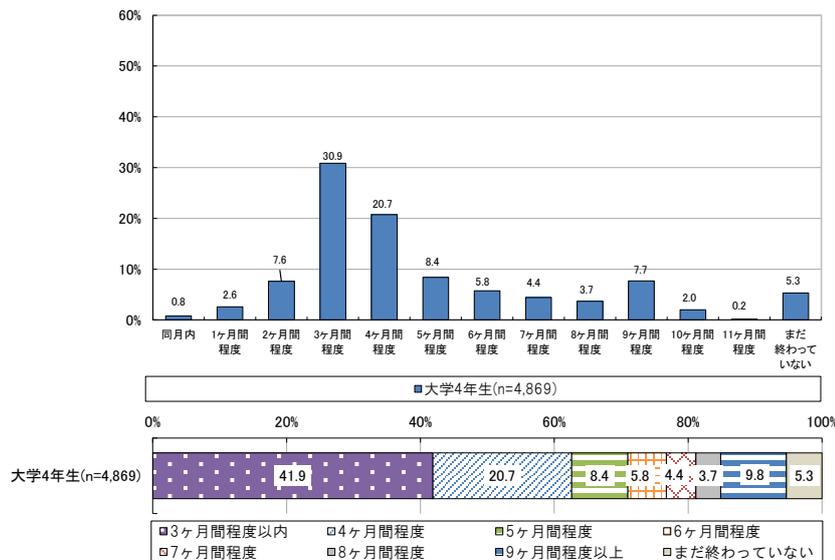


③就職活動の始まりから終わりまでの期間

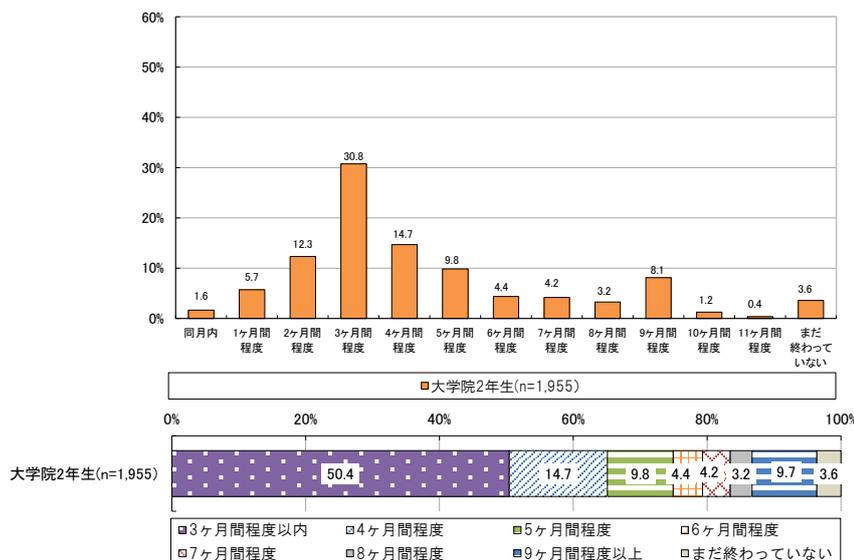
「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について集計すると²⁵、大学4年生・大学院2年生ともに「3ヶ月間程度²⁶」の割合が最も高く、次いで「4ヶ月間程度」の割合が高くなっている。

採用・選考活動開始時期が8月とされていた平成27年度調査では、「5ヶ月間程度」以上に該当する学生が7割を超えていたが、今年度調査は平成28年度調査と同様、6割以上の学生が「4ヶ月程度」以下に該当し、より短い期間で就職活動を終えている傾向が見られる。

図表 3-7-11 就職活動の始まりから終わりまでの期間（大学4年生、公務員・教職員志望者除く）



図表 3-7-12 就職活動の始まりから終わりまでの期間（大学院2年生、公務員・教職員志望者除く）

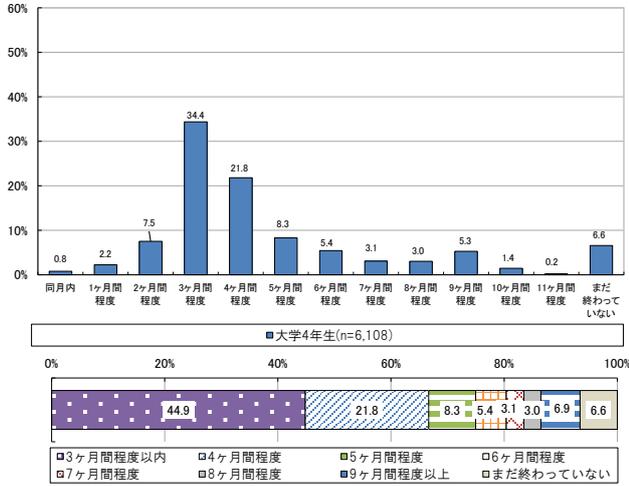


²⁵ 公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。なお、過年度調査も同様に集計を行っている。

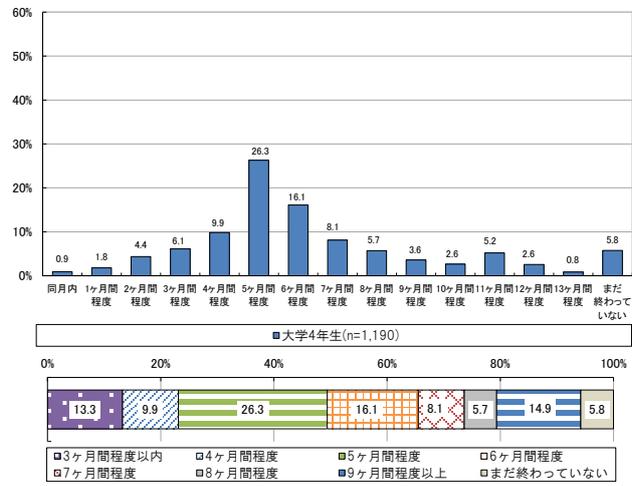
²⁶ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヵ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間の長さを意味するものではない点に留意が必要である。

図表 3-7-13 【参考・過年度調査】就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生、公務員・教職員志望者除く)

<平成28年度調査>

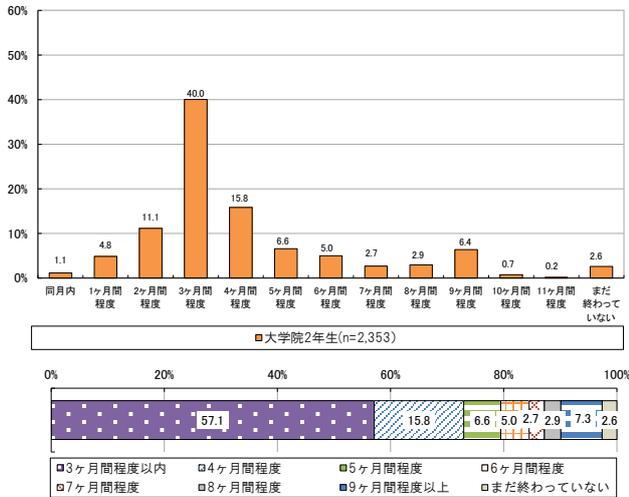


<平成27年度調査>

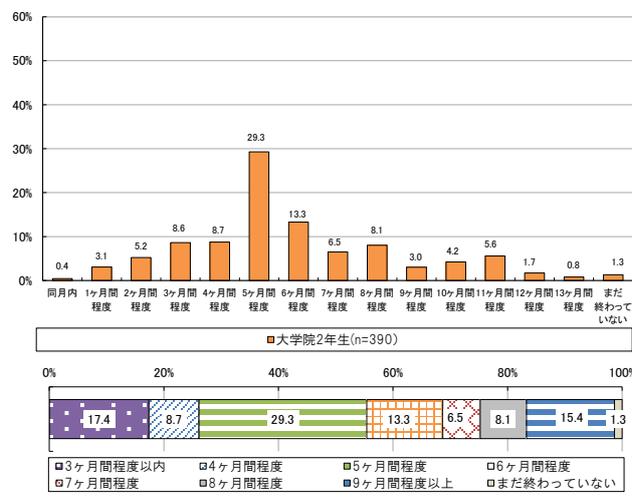


図表 3-7-14 【参考・過年度調査】就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学院2年生、公務員・教職員志望者除く)

<平成28年度調査>



<平成27年度調査>



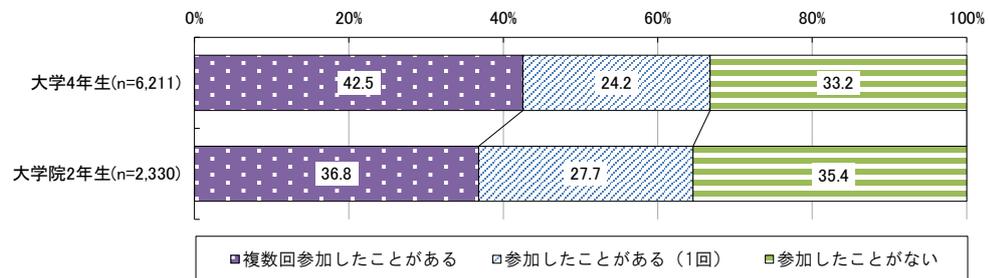
(8) インターンシップの参加状況

①参加の有無

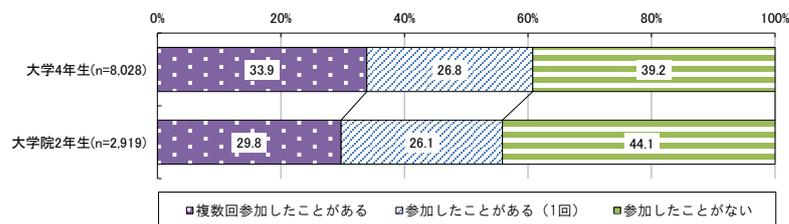
インターンシップ参加経験についてたずねたところ、大学4年生・大学院2年生ともに、6割以上が「参加したことがある」と回答している。なお、大学4年生・大学院2年生ともに約4割が「複数回参加したことがある」と回答している。

過年度調査と比較すると、大学4年生・大学院2年生ともに、今年度調査では「参加したことがある」との回答割合が高くなっている。

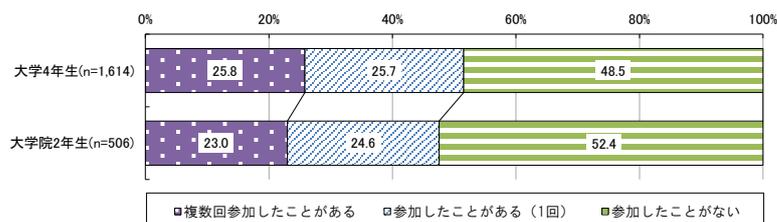
図表 3-8-1 インターンシップ参加経験の有無



図表 3-8-2 【参考・平成 28 年度調査】インターンシップ参加経験の有無



図表 3-8-3 【参考・平成 27 年度調査】インターンシップ参加経験の有無²⁷



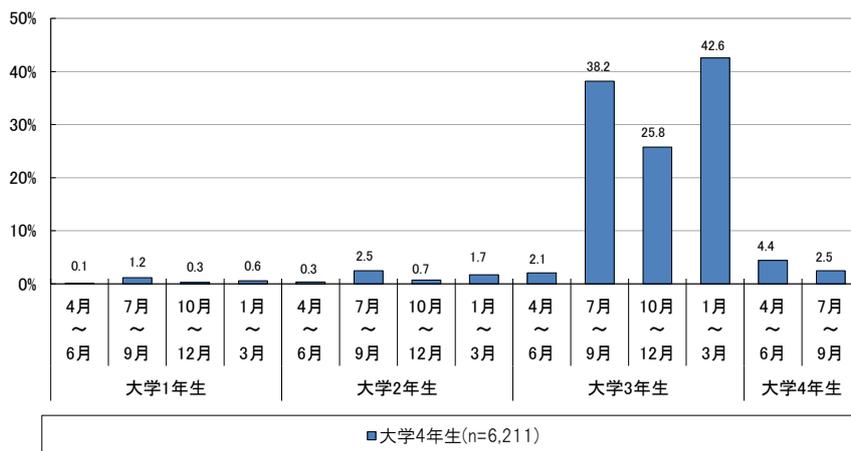
²⁷ 平成 27 年度調査では、就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況についてたずねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

②参加時期

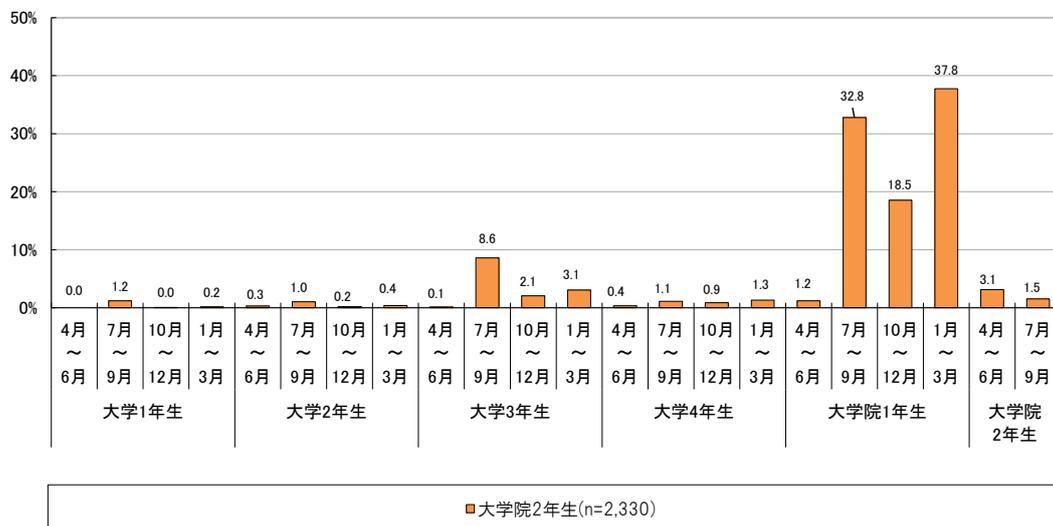
インターンシップ参加の時期についてみると²⁸、大学3年生・大学院1年生の「1月～3月」の参加割合が約4割で最も高く、次いで大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」の割合が高くなっている。

平成28年度調査と比較すると²⁹、ほぼ同様の結果であるが、上記のそれぞれの時期において、今年度調査のほうがインターンシップに参加したと回答した割合が高くなっている。

図表 3-8-4 インターンシップ参加時期（大学4年生、複数回答）



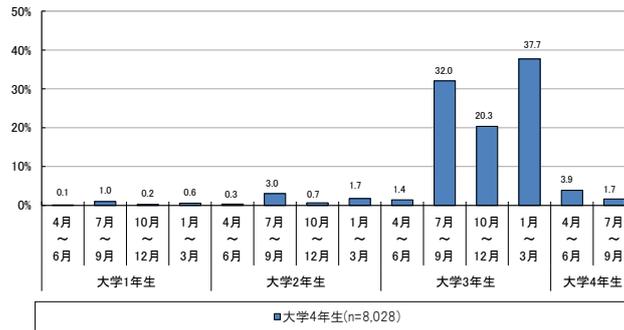
図表 3-8-5 インターンシップ参加時期（大学院2年生、複数回答）



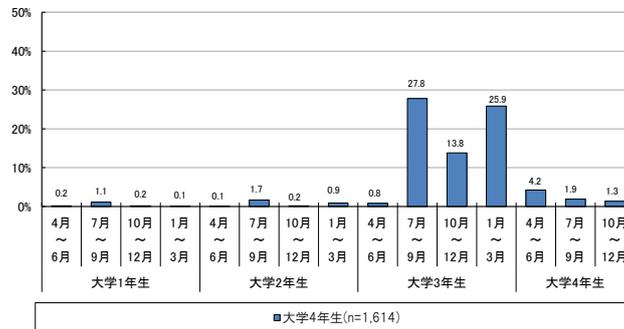
²⁸ ここでの集計対象（母数）には、インターンシップに参加しなかった者も含む。

²⁹ 平成27年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況についてたずねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

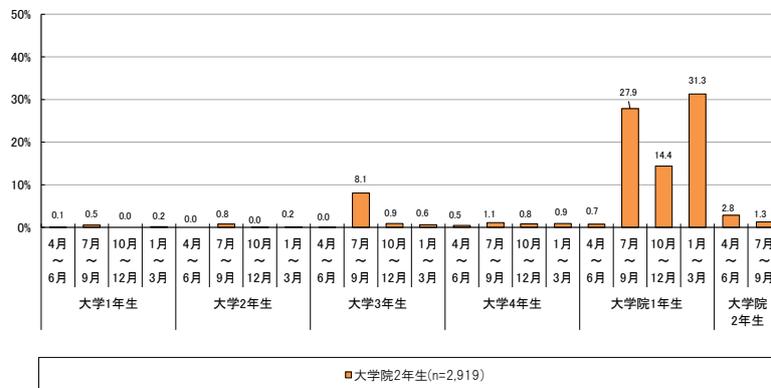
図表 3-8-6 【参考・平成 28 年度調査】インターンシップ参加時期（大学 4 年生、複数回答）



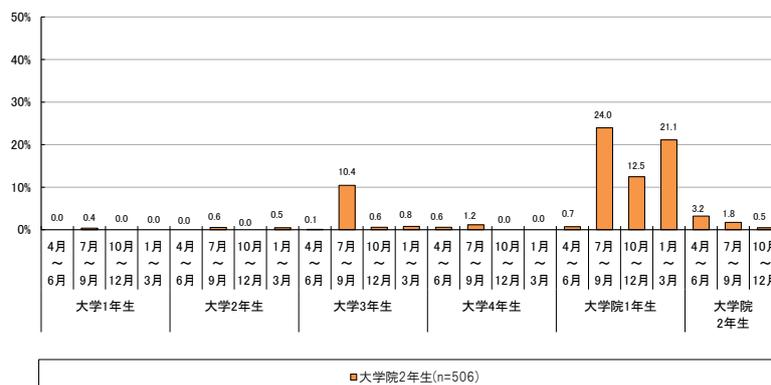
図表 3-8-7 【参考・平成 27 年度調査】インターンシップ参加時期（大学 4 年生、就職活動を行っていない者を除く、複数回答）



図表 3-8-8 【参考・平成 28 年度調査】インターンシップ参加時期（大学院 2 年生、複数回答）



図表 3-8-9 【参考・平成 27 年度調査】インターンシップ参加時期（大学院 2 年生、就職活動を行っていない者を除く、複数回答）

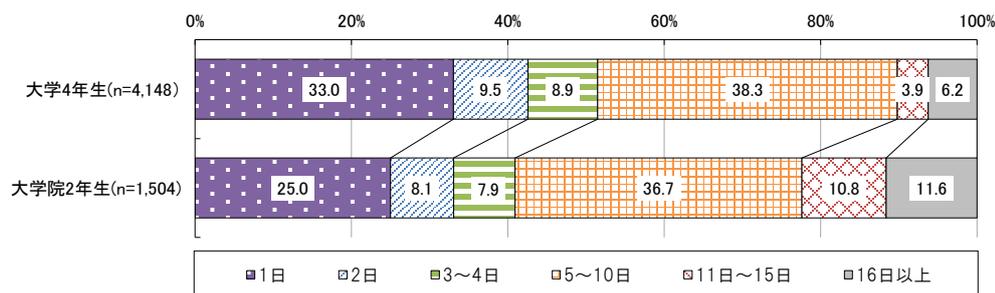


③参加日数

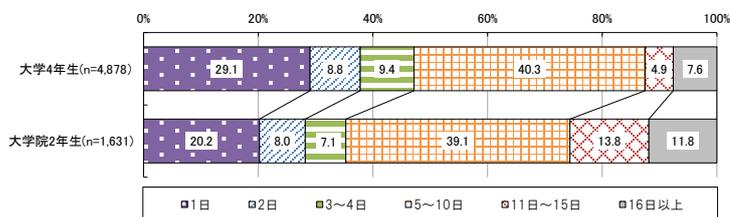
参加したインターンシップのうち、最長の日数のものについて集計したところ、大学4年生・大学院2年生ともに、「5～10日」の回答割合が約4割で最も高くなっており、次いで「1日」の回答割合が高くなっている。なお、大学4年生と比べて、大学院2年生のほうが、比較的長期間のインターンシップ参加経験がある者の割合が高くなっている。

このような傾向は過年度調査と比較しても共通しているが、今年度調査では「1日」の回答割合が高くなっている。

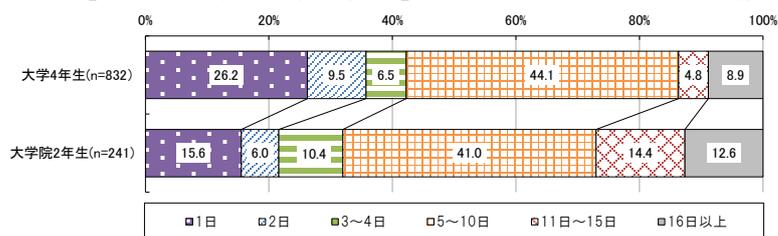
図表 3-8-10 インターンシップ参加日数



図表 3-8-11 【参考・平成 28 年度調査】インターンシップ参加日数



図表 3-8-12 【参考・平成 27 年度調査】インターンシップ参加日数³⁰



³⁰ 平成 27 年度調査では就職活動実施の有無にかかわらずインターンシップの参加状況についてたずねているが、ここでは、「就職活動を行った」者に限定して集計を行った上で比較した。

④1 日間のインターンシップ参加状況

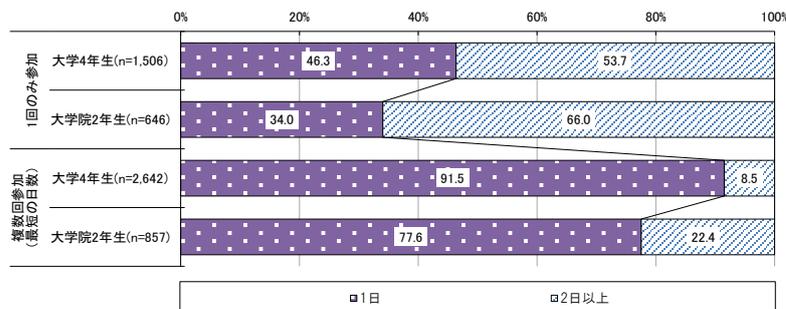
インターンシップに1回のみ参加したことがある者、複数回参加したことがある者のそれぞれについて、1日間のインターンシップの参加状況³¹を集計した。

インターンシップに1回のみ参加したことがある場合で参加日数が「1日」であった割合は、大学4年生では約5割、大学院2年生では約3割であった。インターンシップに複数回参加したことがある場合で「1日」のインターンシップに参加したことがある割合は、大学4年生では9割以上、大学院2年生では約8割であった。

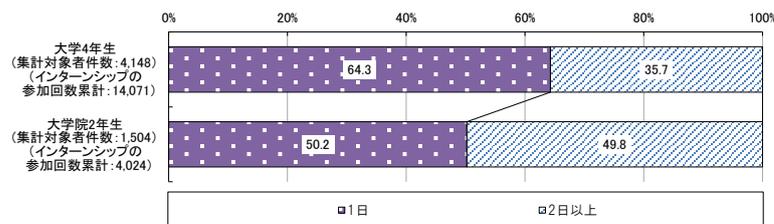
なお、インターンシップへのすべての参加回数のうち、1日間のインターンシップへの参加回数が占める割合を集計すると、大学4年生では約6割、大学院2年生では約5割が1日間のインターンシップであった。

また、参加した1日間のインターンシップのなかで、就業体験等を伴っていないものの割合を集計すると³²、大学4年生では約4割、大学院2年生では約5割が就業体験を伴わないものであった。

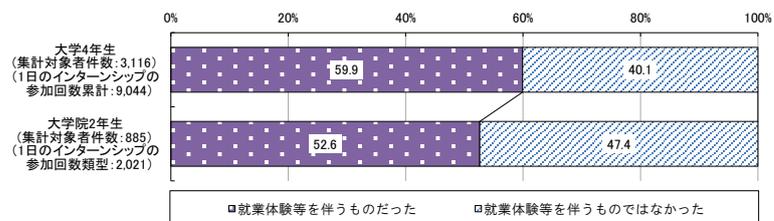
図表 3-8-13 インターンシップ参加経験者の1日間のインターンシップ参加の状況



図表 3-8-14 参加したインターンシップが1日間のインターンシップであった割合 (インターンシップへの参加回数累計による集計)



図表 3-8-15 1日間のインターンシップの就業体験等との関係性 (1日間のインターンシップへの参加回数累計による集計)



³¹ 1回のみ参加したことがある場合にはその日数に関して、複数回参加したことがある場合には最短の日数に関して集計を行い、「1日」との回答割合を算出した。

³² 1日間のインターンシップについて、例えば1回のみ参加の人、2回参加した人、3回参加した人がそれぞれ100人ずついた場合、全部で600回の1日間のインターンシップの機会のうち、就業体験等を伴うものが何回あったかの割合を集計した。

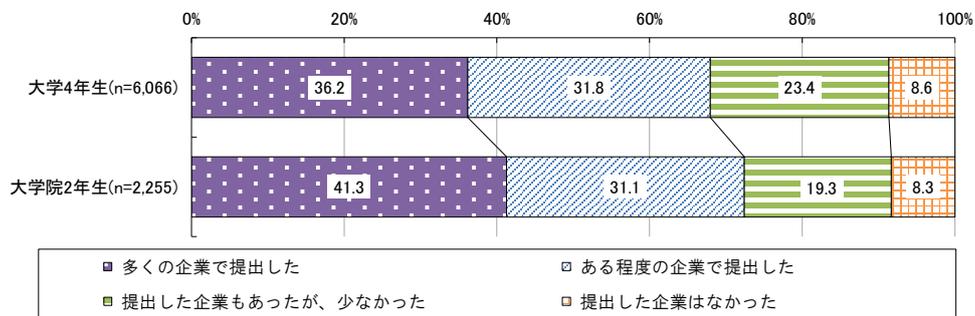
4. 企業による学業などに対する配慮の状況等

(1) 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況

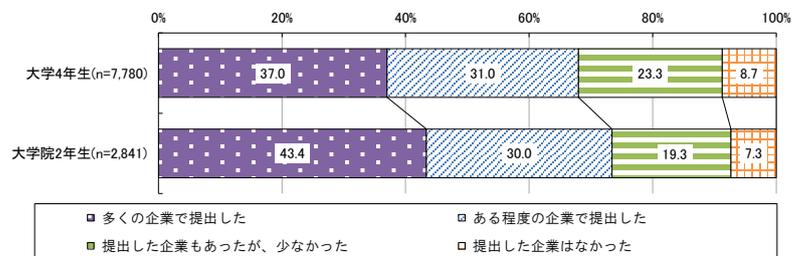
就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴（成績証明書など）を提出することがどの程度あったかをたずねたところ、「多くの企業で提出した」との回答割合は、大学4年生・大学院2年生ともに約4割となっている。なお、今年度調査の結果は平成28年度調査とほぼ同様の結果となっている。

また、就職予定の企業から履修履歴（成績証明書など）の提出がいつ頃求められたかについてみると、大学4年生では「2次面接時以降」との回答割合が約3割で最も高く、大学院2年生では「応募時」との回答割合が約3割で最も高くなっている。

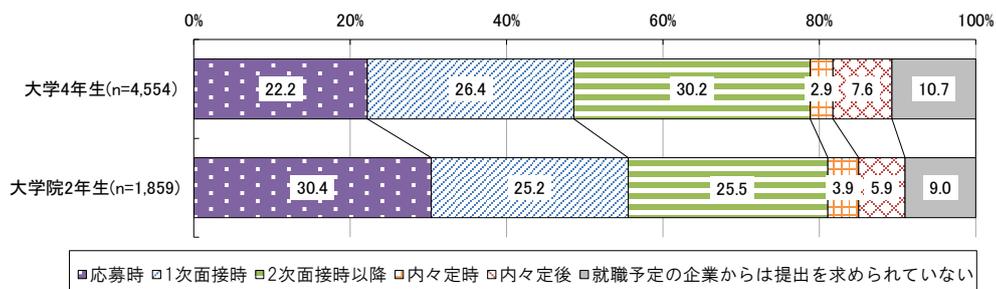
図表 4-1-1 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況



図表 4-1-2 【参考・平成28年度調査】 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況



図表 4-1-3 就職予定の企業への履修履歴（成績証明書など）の提出のタイミング

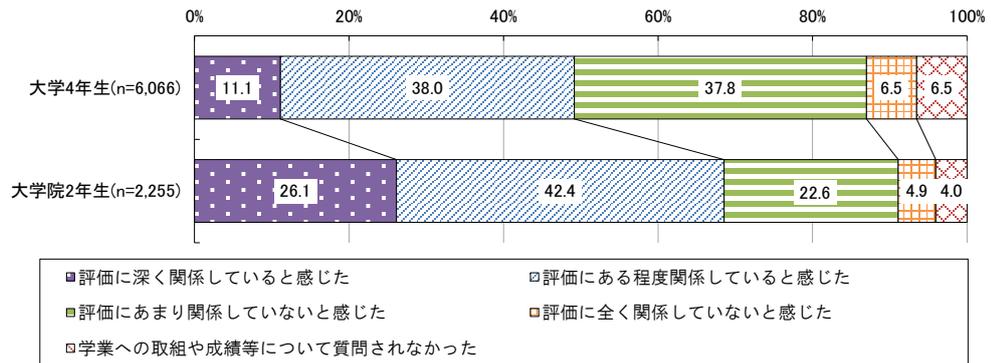


(2) 採用面接の際の学業や成績等への評価

採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業への取組や成績等の質問を受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかをたずねたところ、「評価に深く関係していると感じた」と「評価にある程度関係していると感じた」を合わせた割合は、大学4年生では約5割、大学院2年生では約7割となっている。

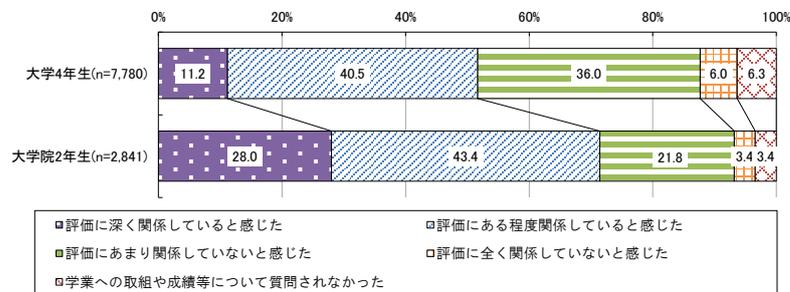
これらは、過年度調査とほぼ同様の結果となっている。

図表 4-2-1 採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか

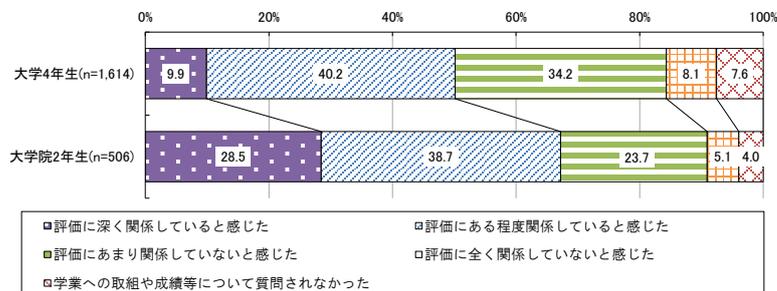


図表 4-2-2 【参考・過年度調査】 採用面接の際に学業の取組や成績等の質問を受け、評価に関係していると感じたか

<平成 28 年度調査>



<平成 27 年度調査>



(3) 就職活動の日程・時間帯等に関する配慮

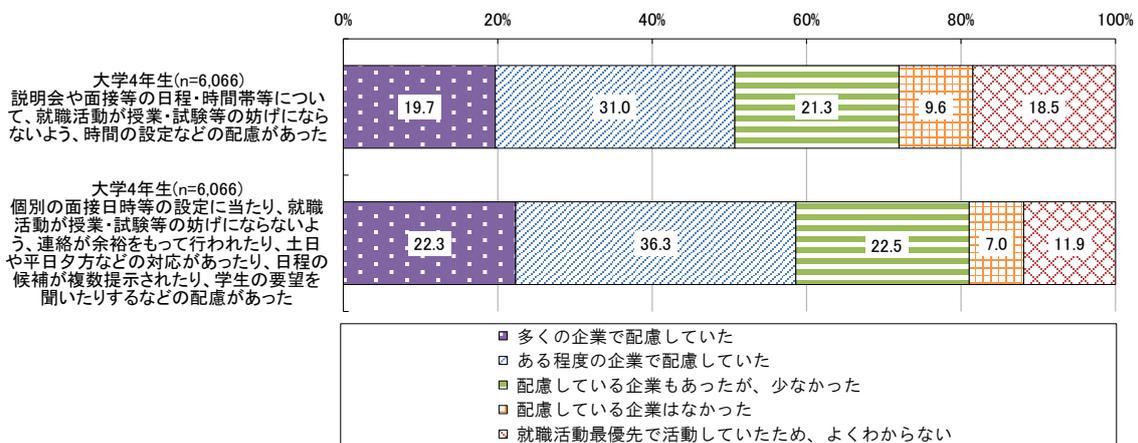
就職活動を行った企業において、学生の学業などに対する配慮がされていたかをたずねた。

「説明会や面接等の日程・時間帯等について配慮があったか」に関しては、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合³³は、大学4年生では約6割、大学院2年生では約7割となっている。

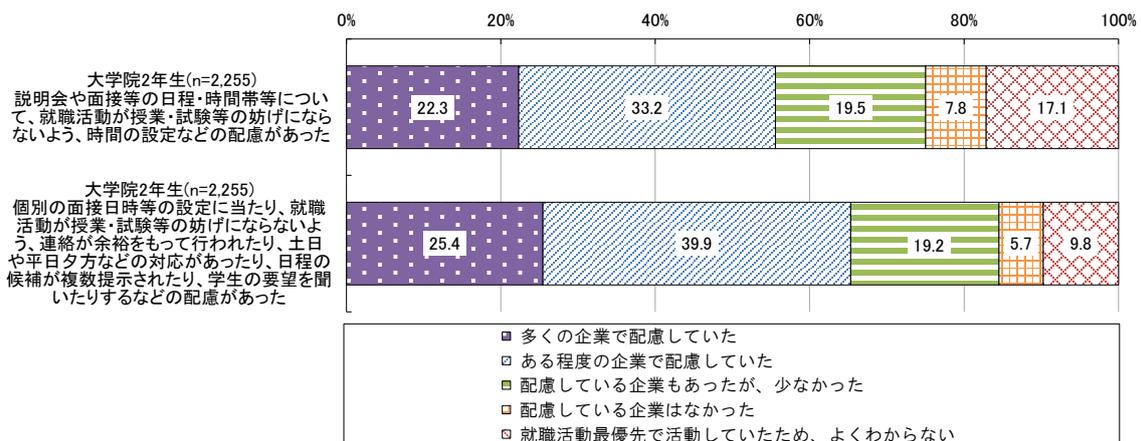
「個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったか」については、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は、大学4年生・大学院2年生ともに約7割となっている。

平成28年度調査と比較すると、それぞれの調査項目に関して、今年度は大学4年生・大学院2年生ともに、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合が若干高くなっている。

図表 4-3-1 就職活動を行った企業における時間や日程等に関する配慮の状況（大学4年生）

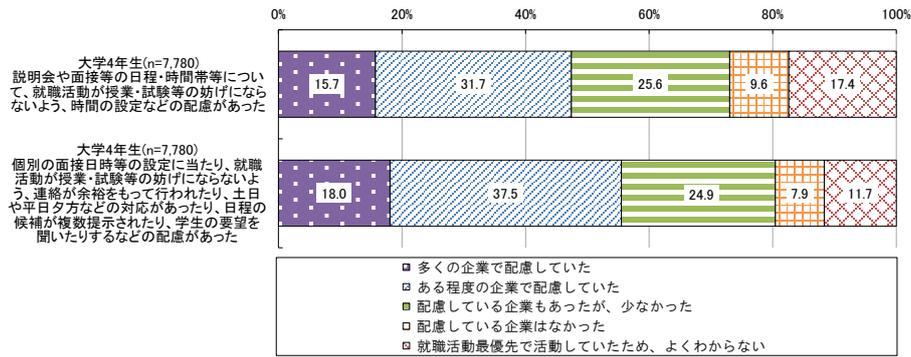


図表 4-3-2 就職活動を行った企業における時間や日程等に関する配慮の状況（大学院2年生）

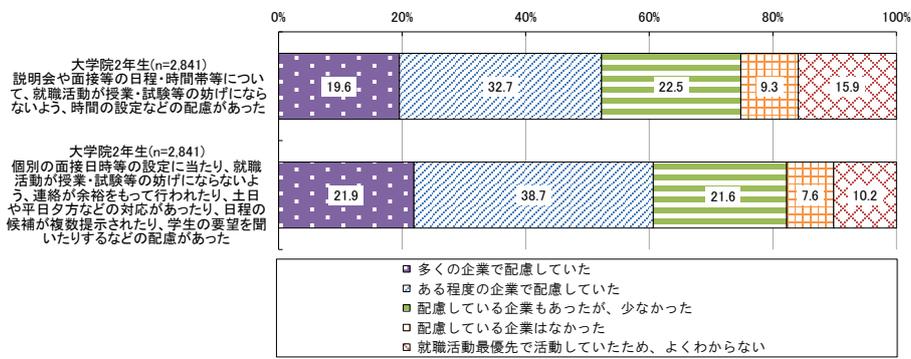


³³ 「就職活動最優先で活動していたため、よくわからない」と回答した者は集計の対象外とした。（「個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったか」についても同様）

図表 4-3-3 【参考・平成 28 年度調査】就職活動を行った企業における時間や日程等に関する配慮の状況（大学 4 年生）



図表 4-3-4 【参考・平成 28 年度調査】就職活動を行った企業における時間や日程等に関する配慮の状況（大学院 2 年生）

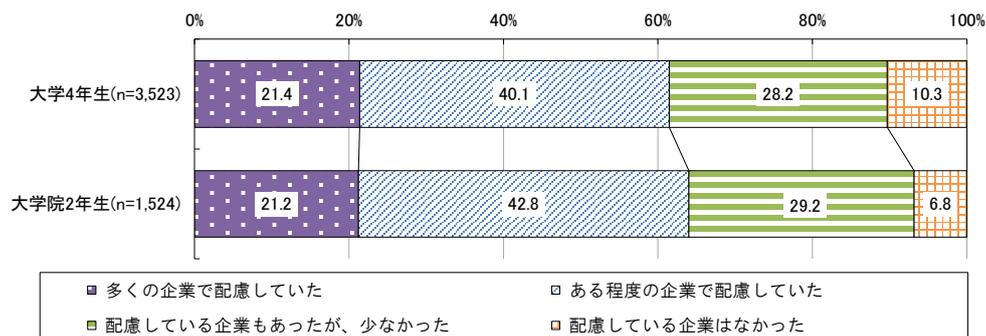


(4) 遠隔地への就職活動への配慮

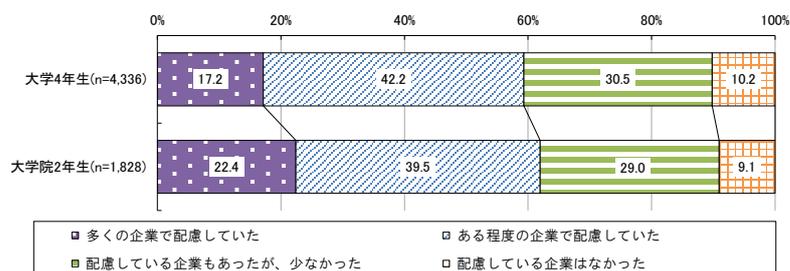
地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮があったかについてみると、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は、大学4年生・大学院2年生ともに約6割となっている³⁴。

平成28年度調査と今年度調査の結果はほぼ同様となっている。

図表 4-4-1 遠隔地への就職活動に際する企業側からの配慮の状況



図表 4-4-2 【参考・平成28年度調査】遠隔地への就職活動に際する企業側からの配慮の状況



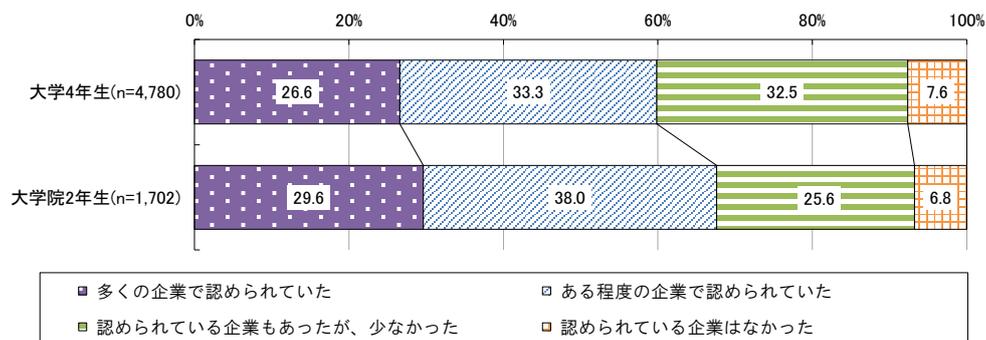
³⁴ 「自身が該当しないため、よくわからない」と回答した者は集計の対象外とした。

(5) クールビズでの対応

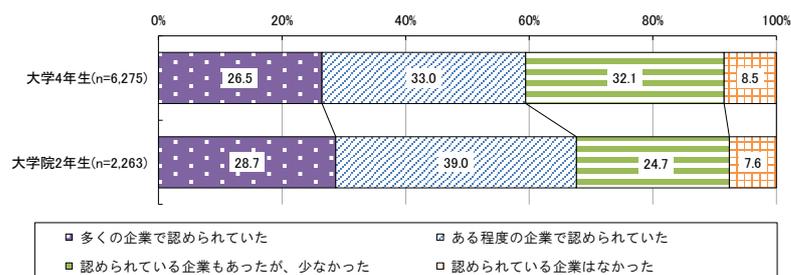
面接の実施にあたり、クールビズでの対応が認められていたかについてみると、「多くの企業で認められていた」と「ある程度の企業で認められていた」を合わせた回答割合は、大学4年生では約6割、大学院2年生では約7割となっている³⁵。

平成28年度調査と今年度調査の結果はほぼ同様となっている。

図表 4-5-1 面接の実施におけるクールビズでの対応の状況



図表 4-5-2 【参考・平成28年度調査】面接の実施におけるクールビズでの対応の状況



³⁵ 「暑い時期に就職活動を行っていない」「わからない」と回答した者は集計の対象外とした。

(6) 留学経験者への配慮

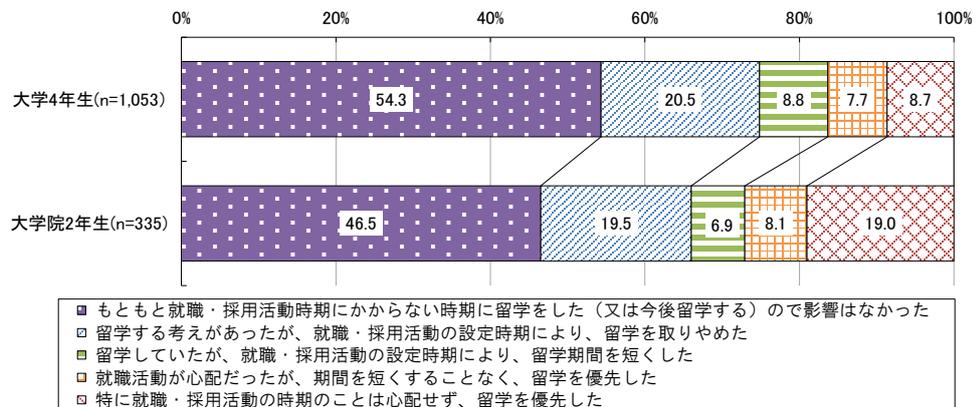
① 留学経験者（検討していた者）の状況

就職・採用活動の設定時期により、留学の予定等に影響があったかについてみると、大学4年生・大学院2年生ともに、留学経験者（検討していた者）のうち³⁶、約5割は「もともと就職・採用活動時期にかからない時期に留学をした（又は今後留学する）ので影響がなかった」と回答している。

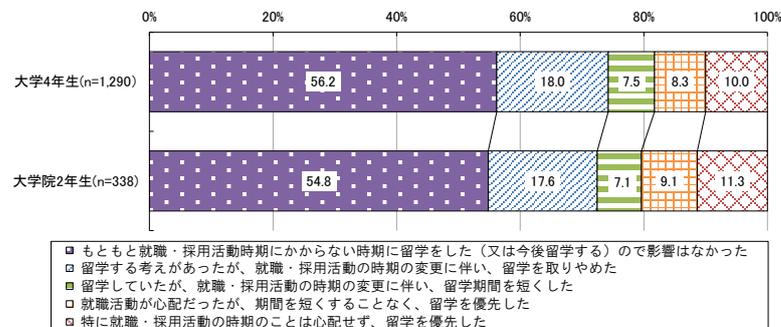
一方、大学4年生・大学院2年生ともに、約2割が「留学する考えがあったが、就職・採用活動の設定時期により、留学を取りやめた」と回答している。

平成28年度調査と今年度調査の結果はほぼ同様となっている³⁷。

図表 4-6-1 留学経験者（検討していた者）の状況



図表 4-6-2 【参考・平成28年度調査】留学経験者（検討していた者）の状況



³⁶ 大学4年生では全体の82.6%が、大学院2年生では全体の85.1%が「もともと留学する予定はなく、留学はしていない」と回答しているが、ここではそれ以外の者を集計対象とした。

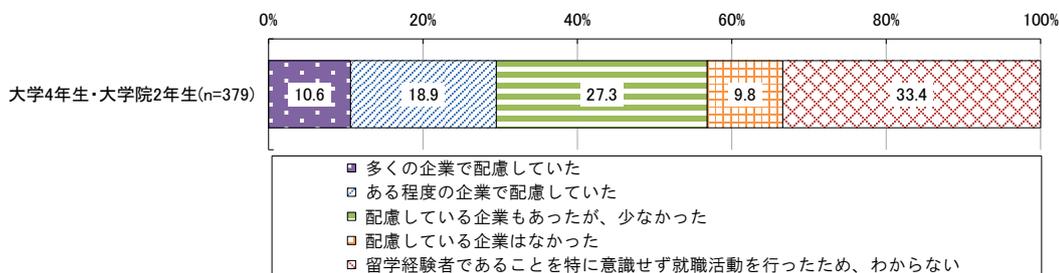
³⁷ 平成28年度調査では、大学4年生では全体の83.4%が、大学院2年生では全体の88.1%が「もともと留学する予定はなく、留学はしていない」との回答であった。

②企業側から留学経験者に対する配慮の状況

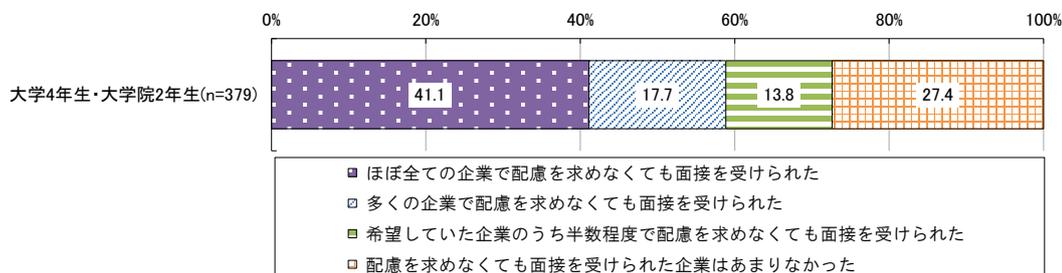
就職・採用活動期間中に留学を実際に行っていた者³⁸に関して、就職を希望した企業において、留学経験者が不利にならないよう留学経験者向けのスケジュールや情報を別途示すなど配慮があったかをたずねたところ、「わからない」との回答を除くと、約4割が「多くの企業で配慮していた」又は「ある程度の企業で配慮していた」と回答しており、平成28年度調査に比べ、この回答割合は若干減少している³⁹。

また、就職を希望していた企業のうち、面接の時期が留学と重なっていなかった、又は留学経験者のための別日程が示されていたため、配慮を求めなくても面接を受けられた企業がどれくらいあったかをたずねたところ、「ほぼすべての企業で配慮を求めなくても面接を受けられた」との回答割合が約4割で最も高くなっているが、「配慮を求めなくても面接を受けられた企業はあまりなかった」との割合も比較的高くなっている。これは、平成28年度調査とほぼ同様の結果となっている。

図表 4-6-3 留学経験者に対する企業側の配慮の状況



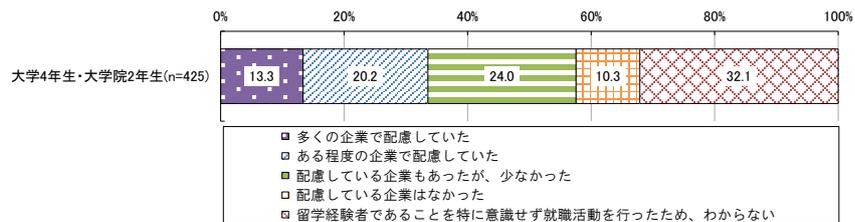
図表 4-6-4 留学経験者が配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況



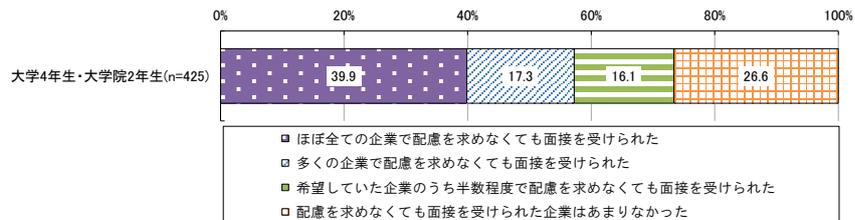
³⁸ 「留学していたが、就職・採用活動の設定時期により、留学期間を短くした」「就職活動が心配だったが、期間を短くすることなく、留学を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、留学を優先した」と回答した者について集計した（以下同様）。

³⁹ 留学経験者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した。なお、合わせて集計するにあたり、集計対象に占める大学4年生及び大学院2年生の分布が、必ずしも母集団の分布に沿ったものとなっているわけではない可能性がある点には留意が必要である。

図表 4-6-5 【参考・平成 28 年度調査】 留学経験者に対する企業側の配慮の状況



図表 4-6-6 【参考・平成 28 年度調査】 留学経験者が配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況



③配慮を求めた際の対応等

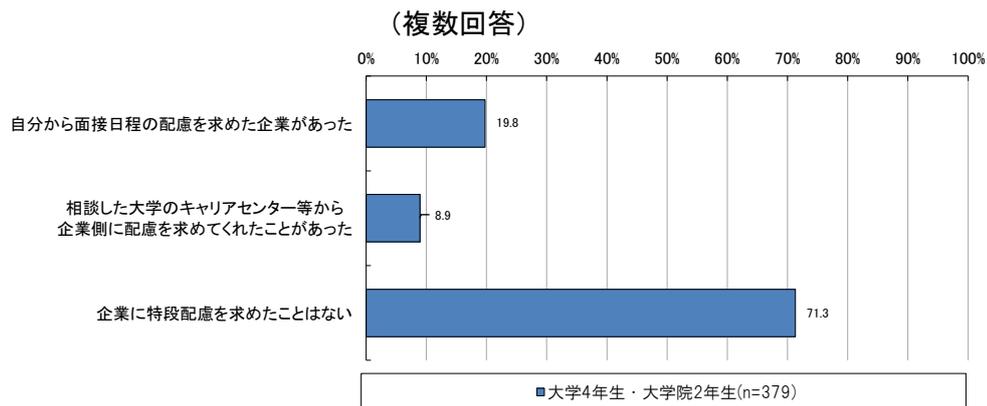
留学と採用選考の時期が重なることに関して、就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったかをたずねたところ、「自分から面接日程の配慮を求めた企業があった」との回答が約2割、「相談した大学のキャリアセンター等から企業側に配慮を求めてくれたことがあった」との回答が約1割であった。

自分から、あるいは大学のキャリアセンター等から配慮を求めた場合の企業側の対応状況についてたずねたところ、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」「対応してくれた企業のほうが多い」の回答割合を合わせると、自分から配慮を求めた場合については5割以上、大学のキャリアセンター等から配慮を求めた場合については約4割となっている。

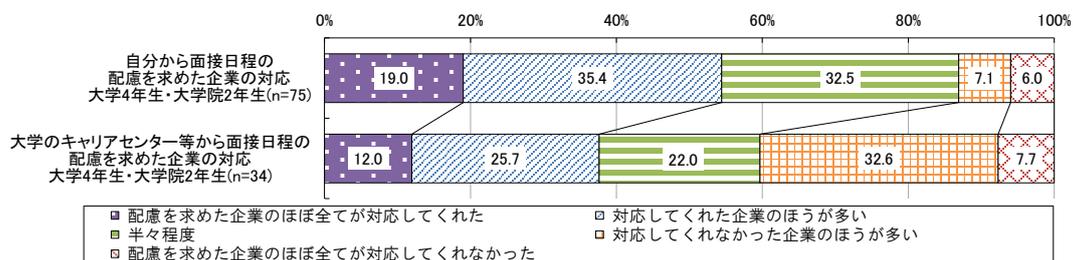
また、就職を希望していた企業のうち、企業側に面接日程についての配慮を求めることをせず、結果として留学と日程が重なり面接を諦めた企業がどのくらいあったかをたずねたところ、「ほぼ全ての企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」「多くの企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」との回答割合を合わせると約2割となっている。

なお、平成28年度調査と比較すると、「配慮を求めた場合の企業の対応」の回答割合に若干の違いが見られるが、ほぼ同様の結果となっている。

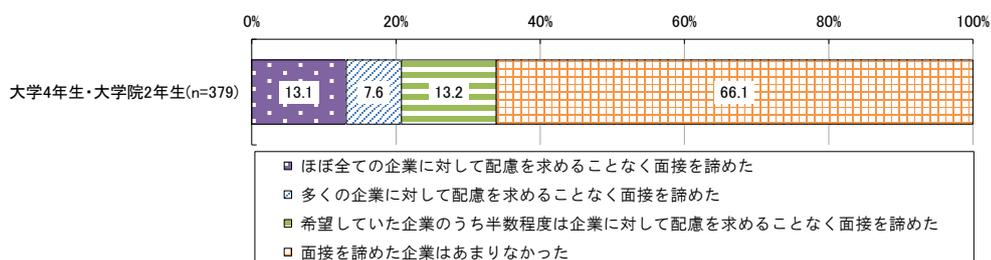
図表 4-6-7 留学経験者が就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったか



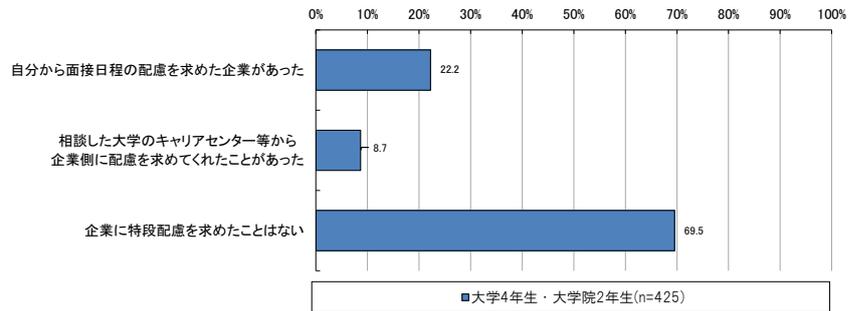
図表 4-6-8 留学経験者が配慮を求めた場合の企業の対応



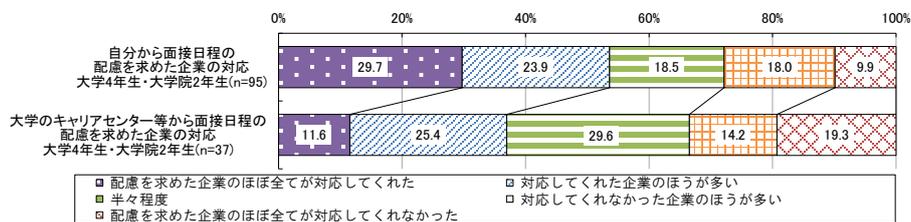
図表 4-6-9 留学経験者が企業に配慮を求めず、結果的に面接を諦めた企業の状況



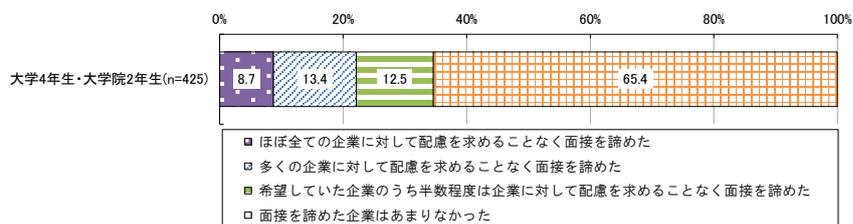
図表 4-6-10 【参考・平成 28 年度調査】留学経験者が就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったか（複数回答）



図表 4-6-11 【参考・平成 28 年度調査】留学経験者が配慮を求めた場合の企業の対応



図表 4-6-12 【参考・平成 28 年度調査】留学経験者が企業に配慮を求めず、結果的に面接を諦めた企業の状況



(7) 教育実習受講者への配慮

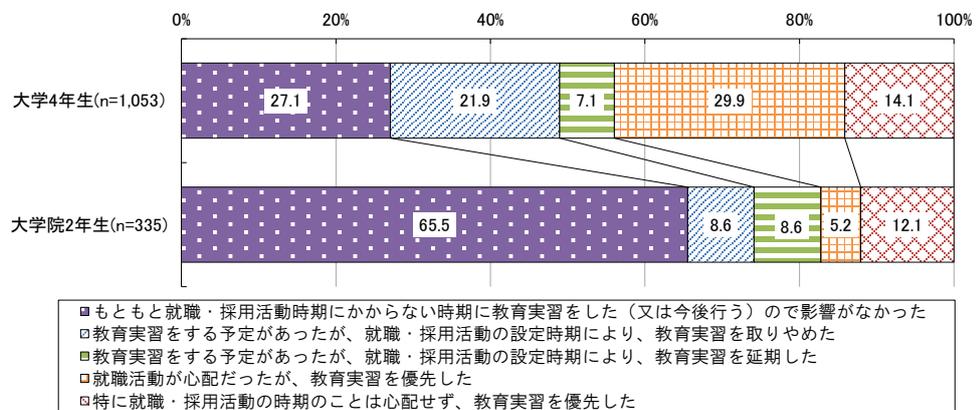
①教育実習受講者（検討していた者）の状況

就職・採用活動の設定時期により、教育実習の予定等に影響があったかについてみると、大学4年生では教育実習受講者（検討していた者）のうち40、「就職活動が心配だったが、教育実習を優先した」、または「もともと就職・採用活動時期にかからない時期に教育実習をした（又は今後行う）ので影響がなかった」との回答割合がそれぞれ約3割と高くなっている。他方、約2割が「教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を取りやめた」と回答している。

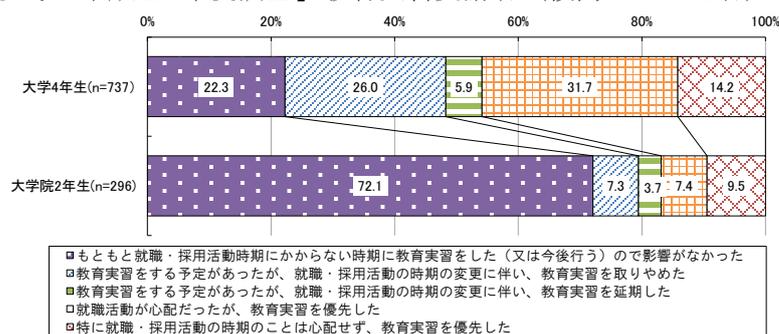
大学院2年生では、約7割が「もともと就職・採用活動時期にかからない時期に教育実習をした（又は今後行う）ので影響がなかった」と回答している。「教育実習をする予定があったが、就職・採用活動の設定時期により、教育実習を取りやめた」と回答したのは約1割であった。

平成28年度調査と今年度調査の結果はほぼ同様となっている⁴¹。

図表 4-7-1 教育実習受講者（検討していた者）の状況



図表 4-7-2 【参考・平成28年度調査】教育実習受講者（検討していた者）の状況



⁴⁰ 大学4年生では全体の90.8%が、大学院2年生では全体の89.4%が「もともと教育実習を考えておらず、教育実習を受けていない」と回答しているが、ここではそれ以外の者を集計対象とした。

⁴¹ 平成28年度調査では、大学4年生では全体の90.5%が、大学院2年生では全体の89.6%が「もともと教育実習を考えておらず、教育実習を受講していない」との回答であった。

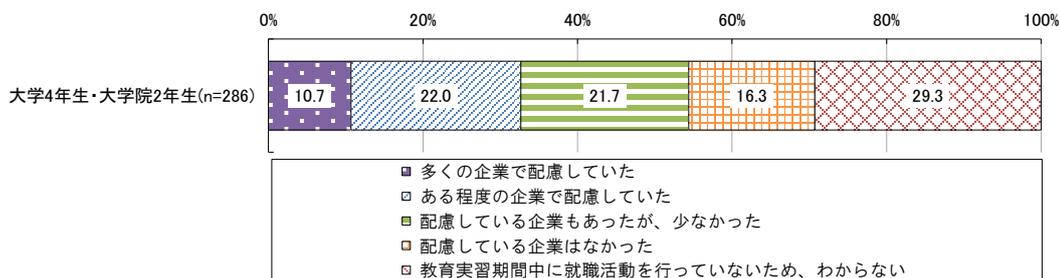
②企業側から教育実習受講者への配慮の状況

就職・採用活動期間中に実際に教育実習を受けていた者⁴²に関して、就職を希望した企業において、就職活動が教育実習の妨げにならないよう、説明会や面接等の日程・時間帯等に配慮があったかをたずねたところ、「教育実習期間中に就職活動を行っていないため、わからない」との回答割合が約3割と最も高いが、それを除くと、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」とを合わせた割合と、「配慮している企業もあったが、少なかった」「配慮している企業はなかった」を合わせた割合とが同程度となっている⁴³。

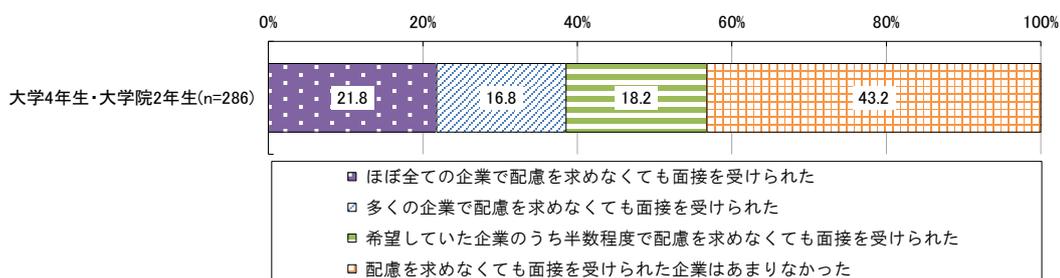
また、就職を希望していた企業のうち、面接の時期が教育実習と重なっていなかった、又は教育実習受講者等のための別日程が示されていたため、配慮を求めなくても面接を受けられた企業がどれくらいあったかをたずねたところ、「配慮を求めなくても面接を受けられた企業はあまりなかった」との回答が約4割、他方で、「ほぼ全ての企業で配慮を求めなくても面接を受けられた」との回答が約3割となっている。

なお、平成28年度調査と比較すると、配慮の状況について、今年度調査では「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」とを合わせた回答割合が若干高くなっている。また、配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況について、今年度調査では「配慮を求めなくても面接を受けられた企業はあまりなかった」との割合が若干低くなっている。

図表 4-7-3 教育実習受講者に対する企業側の配慮の状況



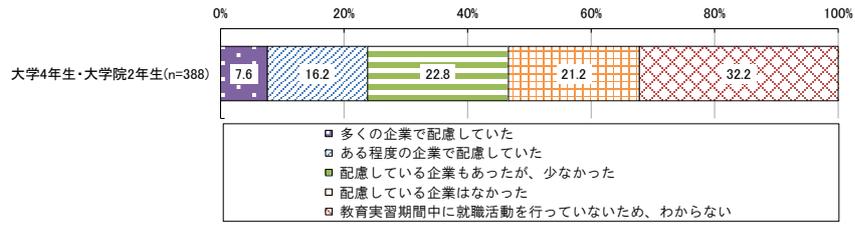
図表 4-7-4 教育実習受講者が配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況



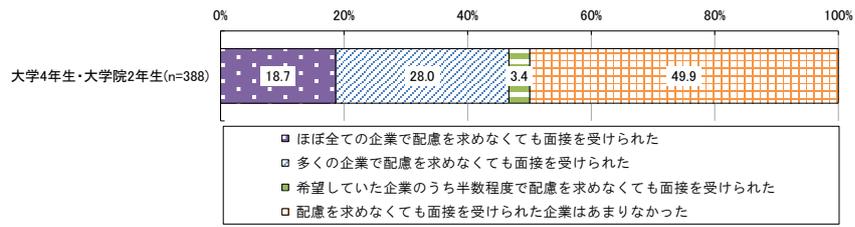
⁴² 「就職活動が心配だったが、教育実習を優先した」「特に就職・採用活動の時期のことは心配せず、教育実習を優先した」と回答した者について集計した（以下同様）。

⁴³ 教育実習受講者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した。なお、合わせて集計するにあたり、集計対象に占める大学4年生及び大学院2年生の分布が、必ずしも母集団の分布に沿ったものとなっているわけではない可能性がある点には留意が必要である。

図表 4-7-5 【参考・平成 28 年度調査】教育実習受講者に対する企業側の配慮の状況



図表 4-7-6 【参考・平成 28 年度調査】教育実習受講者が配慮を求めなくても面接を受けられた企業の状況



③配慮を求めた際の対応等

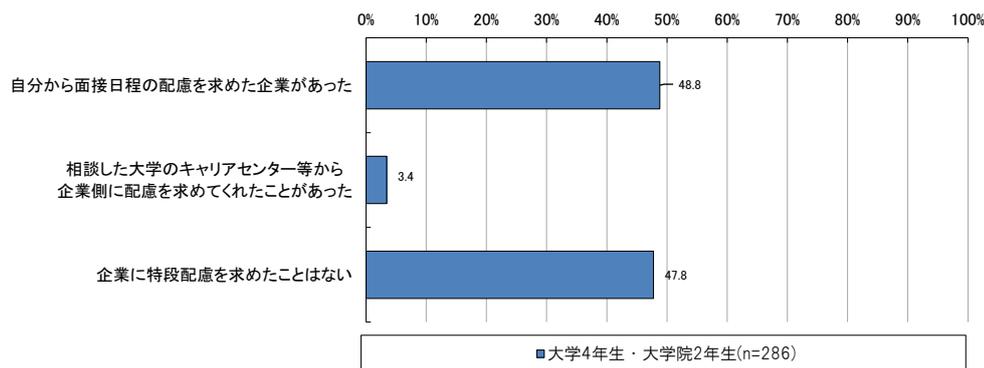
教育実習と採用選考の時期が重なることに関して、就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったかをたずねたところ、「自分から面接日程の配慮を求めた企業があった」との回答が約5割となっている。

自分から配慮を求めた場合の企業側の対応状況についてたずねたところ⁴⁴、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」「対応してくれた企業のほうが多い」との回答割合は合わせて約6割となっている。

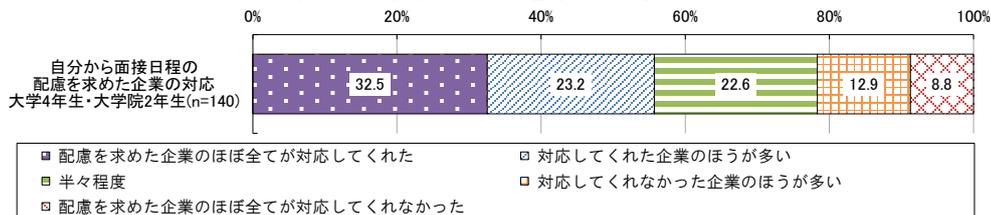
また、就職を希望していた企業のうち、企業側に面接日程についての配慮を求めることをせず、結果として教育実習と日程が重なり面接を諦めた企業がどのくらいあったかをたずねたところ、「ほぼ全ての企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」「多くの企業に対して配慮を求めることなく面接を諦めた」の回答を合わせた割合は約2割となっている。

なお、平成28年度調査と比較すると、今年度調査では「配慮を求めた場合の企業の対応」として、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」「対応してくれた企業のほうが多い」の回答を合わせた割合が高くなっている。

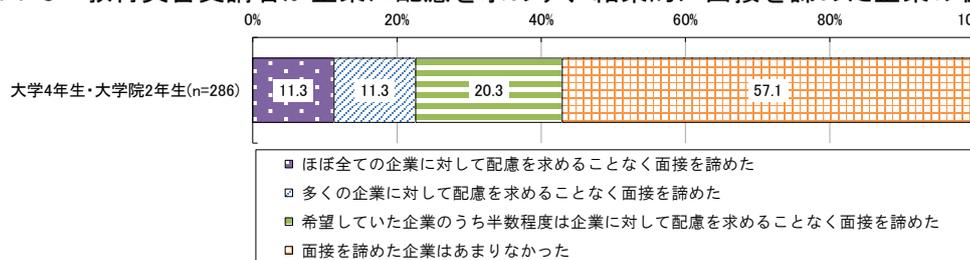
図表 4-7-7 教育実習受講者が就職を希望した企業に対して面接日程について
配慮を求めたことがあったか（複数回答）



図表 4-7-8 教育実習受講者が配慮を求めた場合の企業の対応

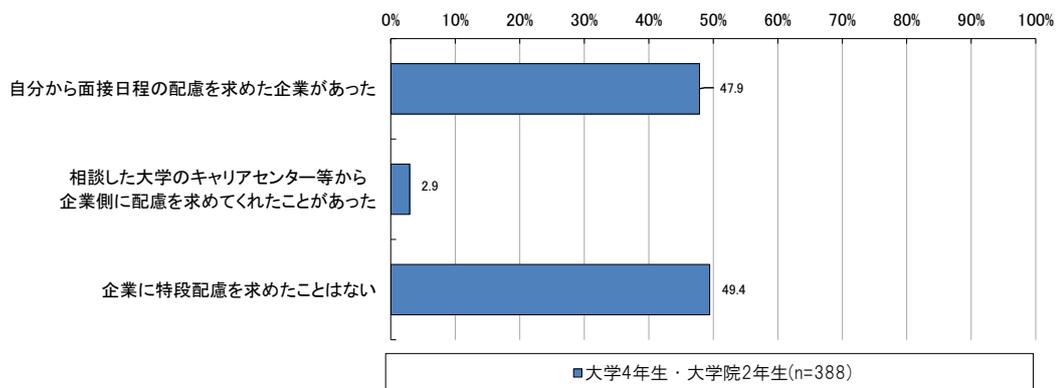


図表 4-7-9 教育実習受講者が企業に配慮を求めず、結果的に面接を諦めた企業の状況

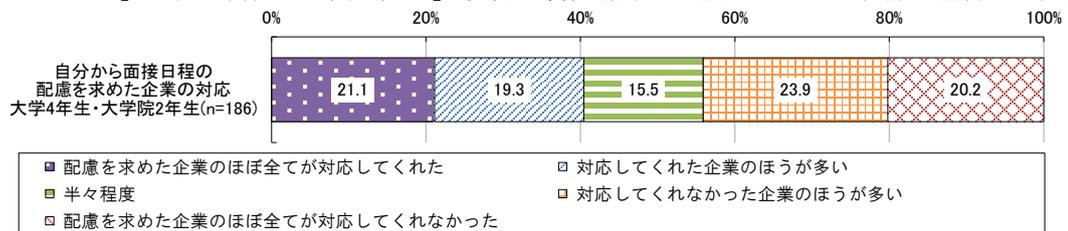


⁴⁴ 大学のキャリアセンター等から配慮を求めた場合に関しては、集計対象の度数が非常に少ないことから集計結果を掲載しなかった。

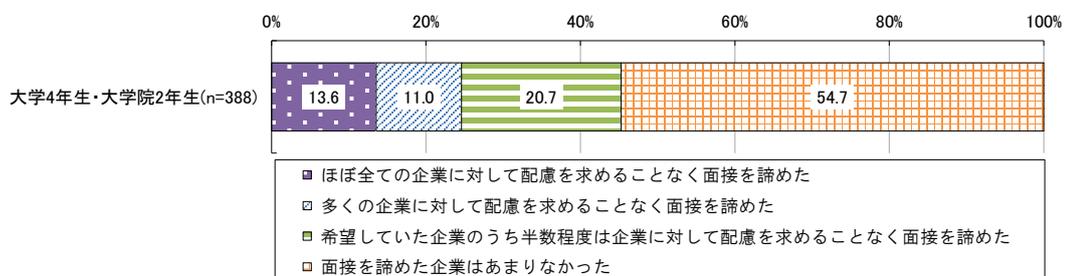
図表 4-7-10 【参考・平成 28 年度調査】教育実習受講者が就職を希望した企業に対して面接日程について配慮を求めたことがあったか（複数回答）



図表 4-7-11 【参考・平成 28 年度調査】教育実習受講者が配慮を求めた場合の企業の対応



図表 4-7-12 【参考・平成 28 年度調査】教育実習受講者が企業に配慮を求めず、結果的に面接を諦めた企業の状況



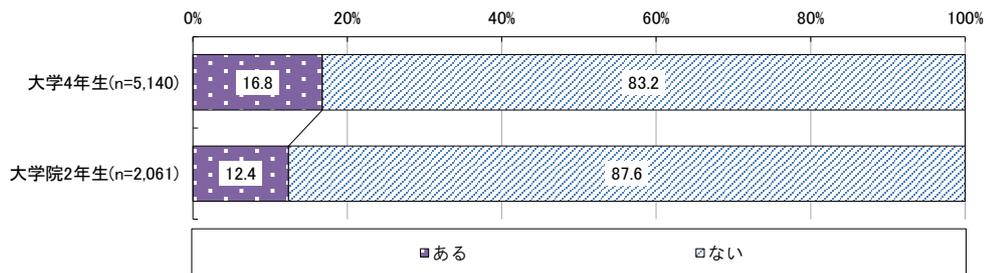
(8) ハラスメント的な行為の状況

①ハラスメント的な行為の有無

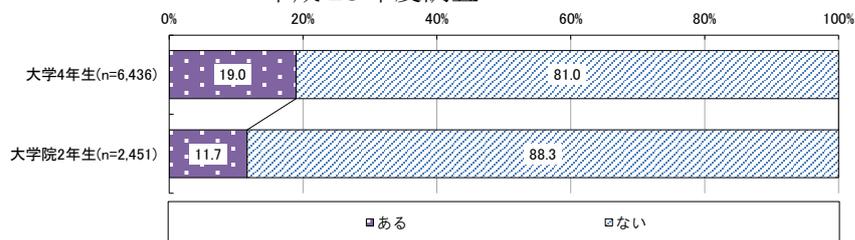
企業等から、他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為を受けたことがあるかをたずねたところ⁴⁵、大学4年生では約2割、大学院2年生では約1割の者が「ある」と回答している。

なお、過年度調査と比較すると、大学4年生については今年度調査において「ある」と回答した者の割合が若干低くなっているが、過年度調査とほぼ同様の結果となっている。

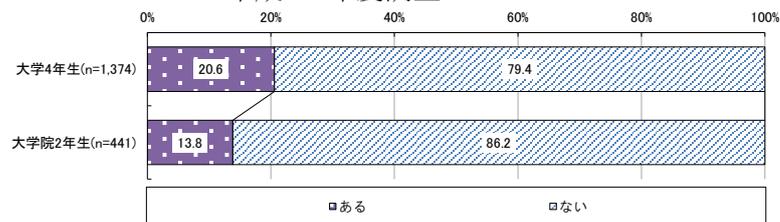
図表 4-8-1 企業からハラスメント的な行為を受けた経験の有無



図表 4-8-2 【参考・過年度調査】企業からハラスメント的な行為を受けた経験の有無
 <平成 28 年度調査>



<平成 27 年度調査>



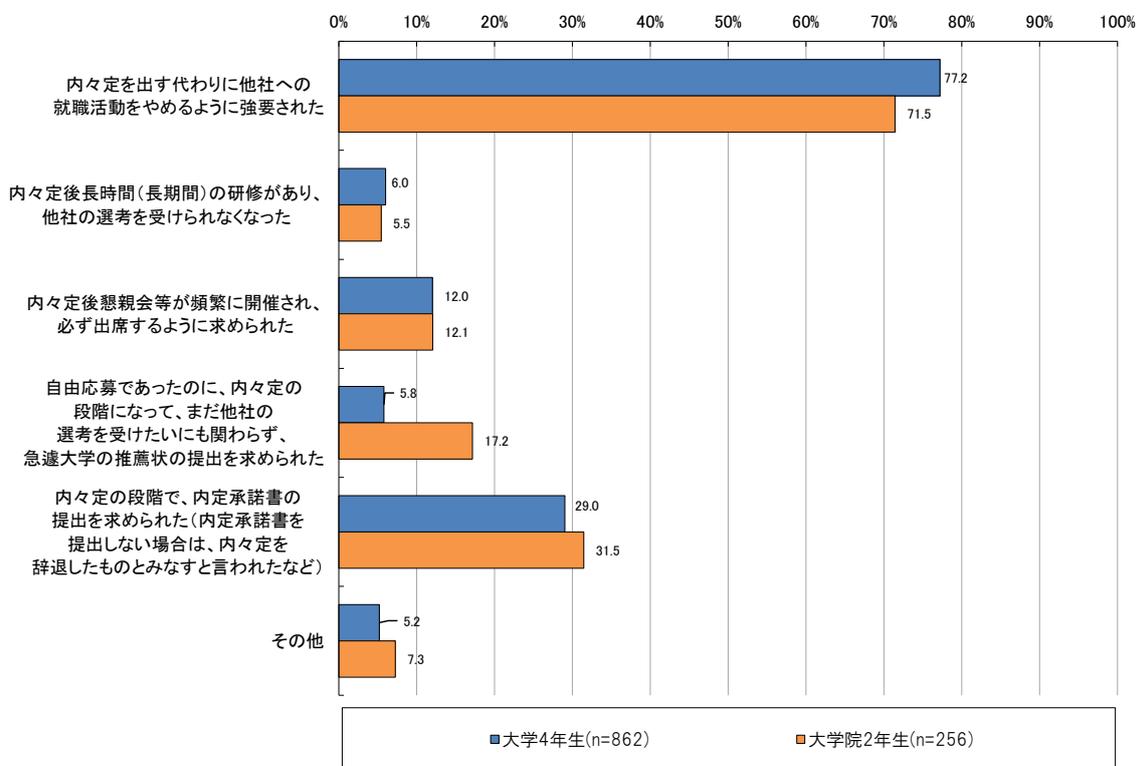
⁴⁵ 今年度調査は、平成 29 年 8 月 1 日時点で内々定を 1 社以上から受けた者を集計の対象とした。なお、平成 28 年度調査については平成 28 年 8 月 1 日時点、平成 27 年度調査では平成 27 年 10 月 1 日時点で内々定を 1 社以上から受けた者を集計の対象としている。

②ハラスメント的な行為の内容

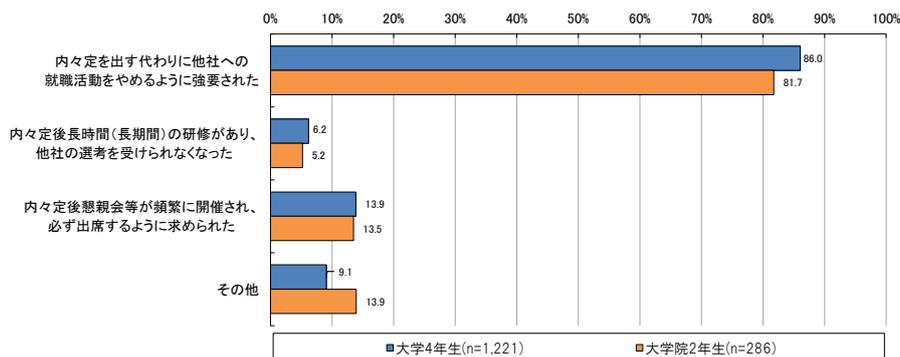
企業等から、他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為を受けたかについて「ある」と回答した者に、どのようなハラスメント的な行為を受けたかをたずねたところ、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」との回答割合が大学4年生・大学院2年生ともに7割以上となっている。次いで、「内々定の段階で、内定承諾書の提出を求められた（内定承諾書を提出しない場合は、内々定を辞退したものとみなすと言われたなど）」の回答割合が約3割となっている。

なお、「自由応募であったのに、内々定の段階になって、まだ他社の選考を受けたいにも関わらず、急遽大学の推薦状の提出を求められた」との回答は、大学院2年生において比較的割合が高くなっている。

図表 4-8-3 企業から受けたハラスメント的な行為の内容（複数回答）



図表 4-8-4 【参考・平成28年度調査】企業から受けたハラスメント的な行為の内容（複数回答）

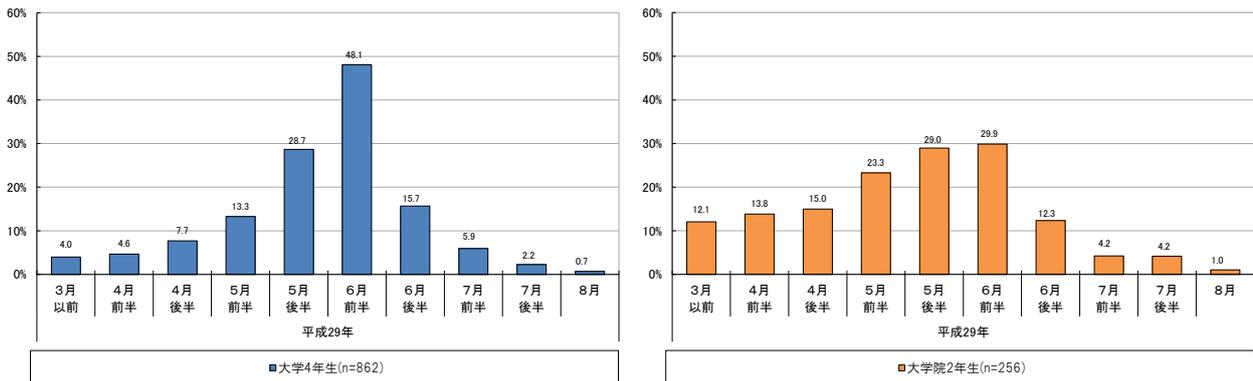


③ハラスメント的な行為があった時期

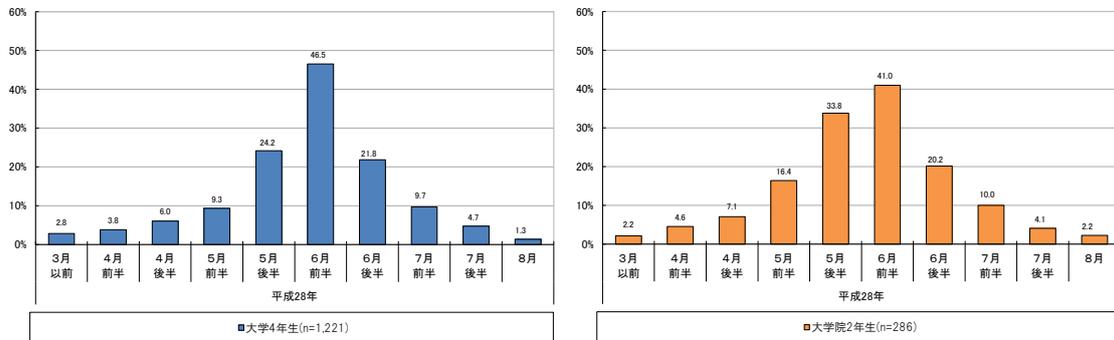
ハラスメント的な行為を受けた時期としては、大学4年生では「平成29年6月前半」との回答割合が約5割と最も高くなっている。大学院2年生では、「平成29年6月前半」の回答割合が最も高いが、それ以前の時期の回答割合も比較的高くなっている。

平成28年度調査と比較すると、大学4年生・大学院2年生ともに、今年度においてはより早期の回答割合が高くなっている。

図表 4-8-5 企業からハラスメント的な行為を受けた時期（複数回答）



図表 4-8-6 【参考・平成28年度調査】企業からハラスメント的な行為を受けた時期（複数回答）

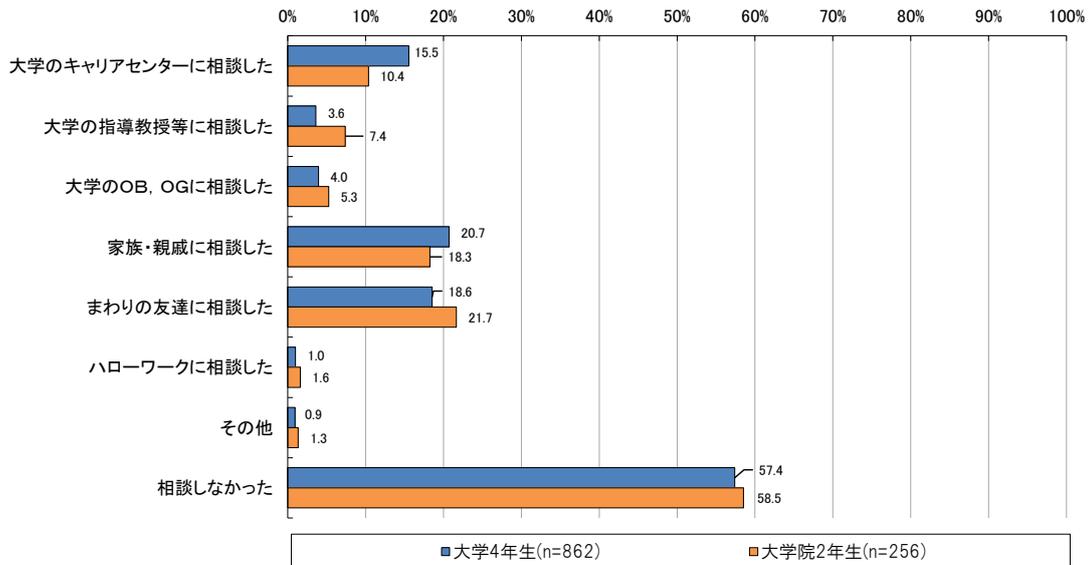


④ハラスメント的な行為への対応

ハラスメント的な行為を受けた経験がある者について、その際の対応をみると、大学4年生・大学院2年生ともに、「相談しなかった」の回答割合が約6割と最も高くなっている。また、「家族・親戚に相談した」「まわりの友達に相談した」の回答がそれぞれ約2割となっている。

平成28年度調査と比較すると、今年度調査では「相談しなかった」の割合が若干高いが、他の質問事項については、ほぼ同様の結果となっている。

図表 4-8-7 企業からハラスメント的な行為を受けた際の対応（複数回答）



図表 4-8-8 【参考・平成28年度調査】企業からハラスメント的な行為を受けた際の対応（複数回答）

